NTR!?人妻
～義妹に孕まされる妻～
完成版っ!!!
ボクが一番姉さんを愛せるんだ…
FUTANARI FANTASY
creating by 木星ろっく
&
暮島弘人

NTR!?人妻
～義妹に孕まされる妻～
完成版っ!!!
ボクが一番姉さんを愛せるんだ…
FUTANARI FANTASY
creating by 木星ろっく
&
暮島弘人

NTR!?人妻
～義妹に孕まされる妻～
完成版！！
FUTANARI FANTASY
creating by 木星ろっく
&
暮島弘人
孕ますなら、さっさと中に出せっ!!

僕たちは長男一家の葬式に出ていた
そして、葬式後「すぐに来るように」と父親に言われていた

呼ばれた理由はなんとなく察しはついてる

先日、長男一家が交通事故で亡くなった。
恐らく、本家の跡目のことだろう。
僕の妻である茜さんも一緒にくるように言われているのだ

茜「次郎君！顔が情けなくなってるぞ!!
ピシっとしないか！」

茜さんが僕の尻を一発叩く

茜さんとは職場の上司と部下の関係だった。
入社してすぐに茜さんの下につき
ビシビシとしごかれた、仕事のできる人だったので
僕自身のスキルも順調に上がっていった。

姉御肌の茜さんに僕はグイグイ惹かれていった。
これだけ美人なら当然だ。

社内外問わず茜さんを狙っている人は少なくなかったが
茜さんはガードが硬く、男と二人きりで食事にすら行かないような人だった。

そんなある日、茜さんの母親が病に倒れる
珍しい病気らしく高額な医療費がかかるらしく
茜さんは途方に暮れていた。
僕自身に力は無かったが
実家は財閥とも繋がりがある非常に裕福な家庭だった。

僕は昔から苦手だった父ではなく、兄さんに話をし
一緒に父にお金を出してくれるように頼みに行った。

最初茜さんには断られたが、強引にもお金を受け取って貰った。
あとから聞いた話だが、当時は相当参っていて
崩壊寸前だったらしい…（全然そんな風には見えなかった）
相手の弱っている所に付け込んだ形だが
僕は全力で茜さんが好きだったので
困っている茜さんを放ってはおけなかった
その事がきっかけで、ふたりで時間を過ごすことが多くなった
茜「ホラー！行くわよっ！
アンタはもう私の旦那なんだから、堂々とするんだっ！」
結婚しても、上下関係は相変わらずだが
僕らにはこの関係がピッタリなのだ。

そして僕らは、父の元へといった

現当主の祖父も年だ。早急に跡取りを作らねばならない

「どうせ、養子でもと考えているのだろう…」と思っていたが

父はとんでもないことを言い出した――

父「茜さんには、当家の血を引いた子を産んでもらわねばならない

でなければ、弟に家督を継がれてしまいかねない」

父の弟(ススム叔父さん)の息子(従兄)は優秀な人で

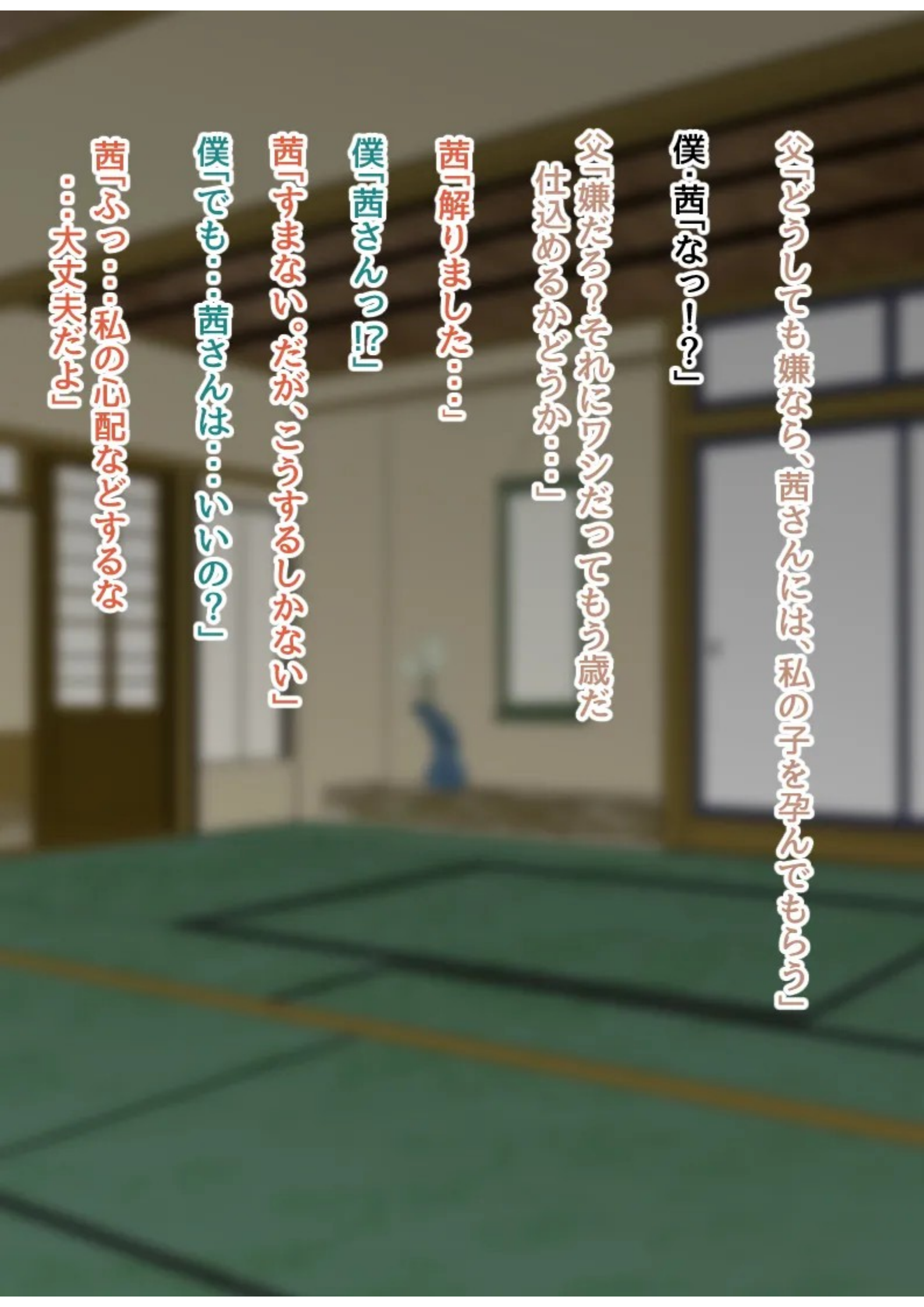
去年三人目の男の子を産んだ。

祖父は、血筋を考え、叔父に当主の座を託すかもしれない

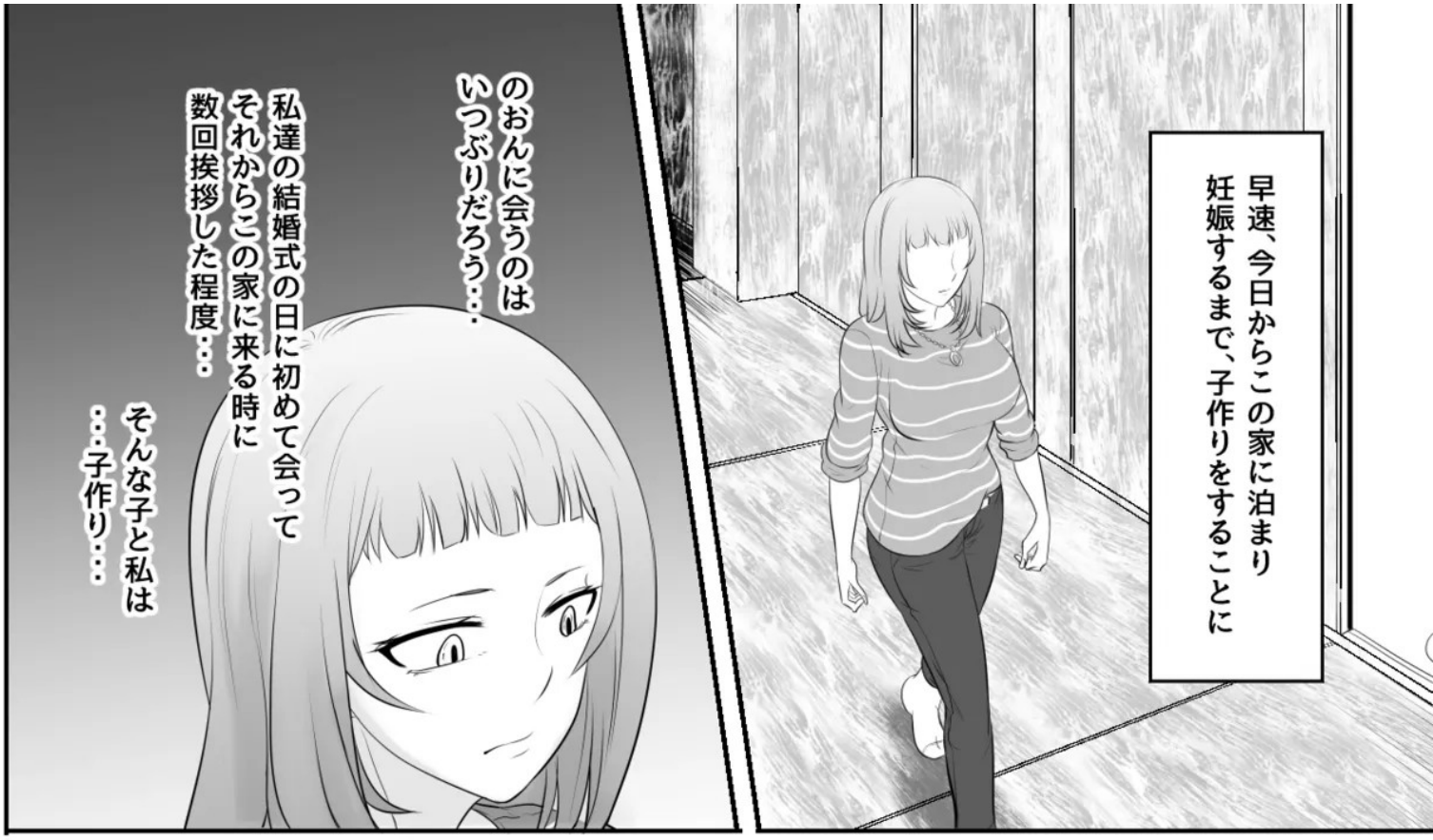
父はそう考えたのだ

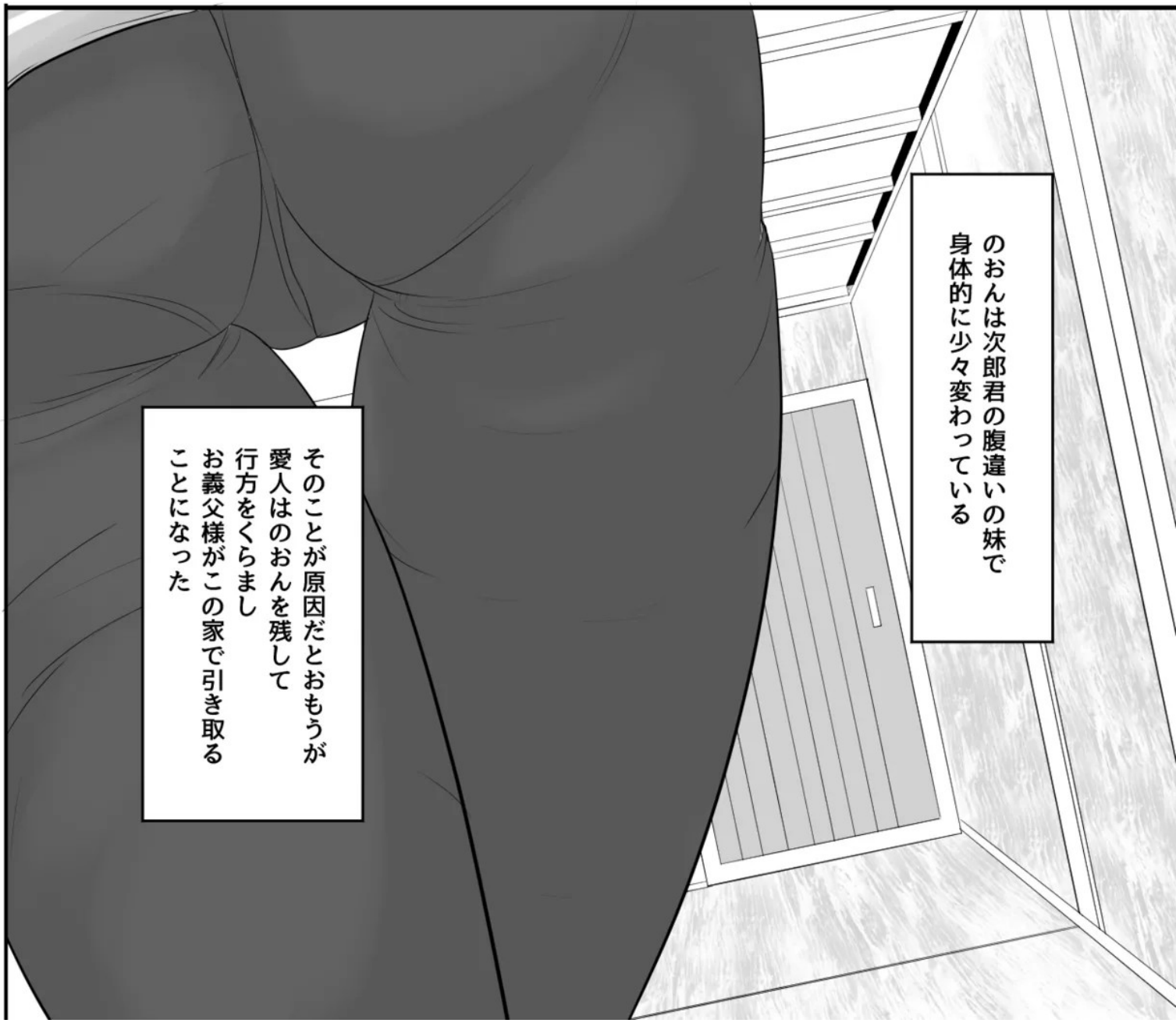
僕「…でも、父さん…僕は…」

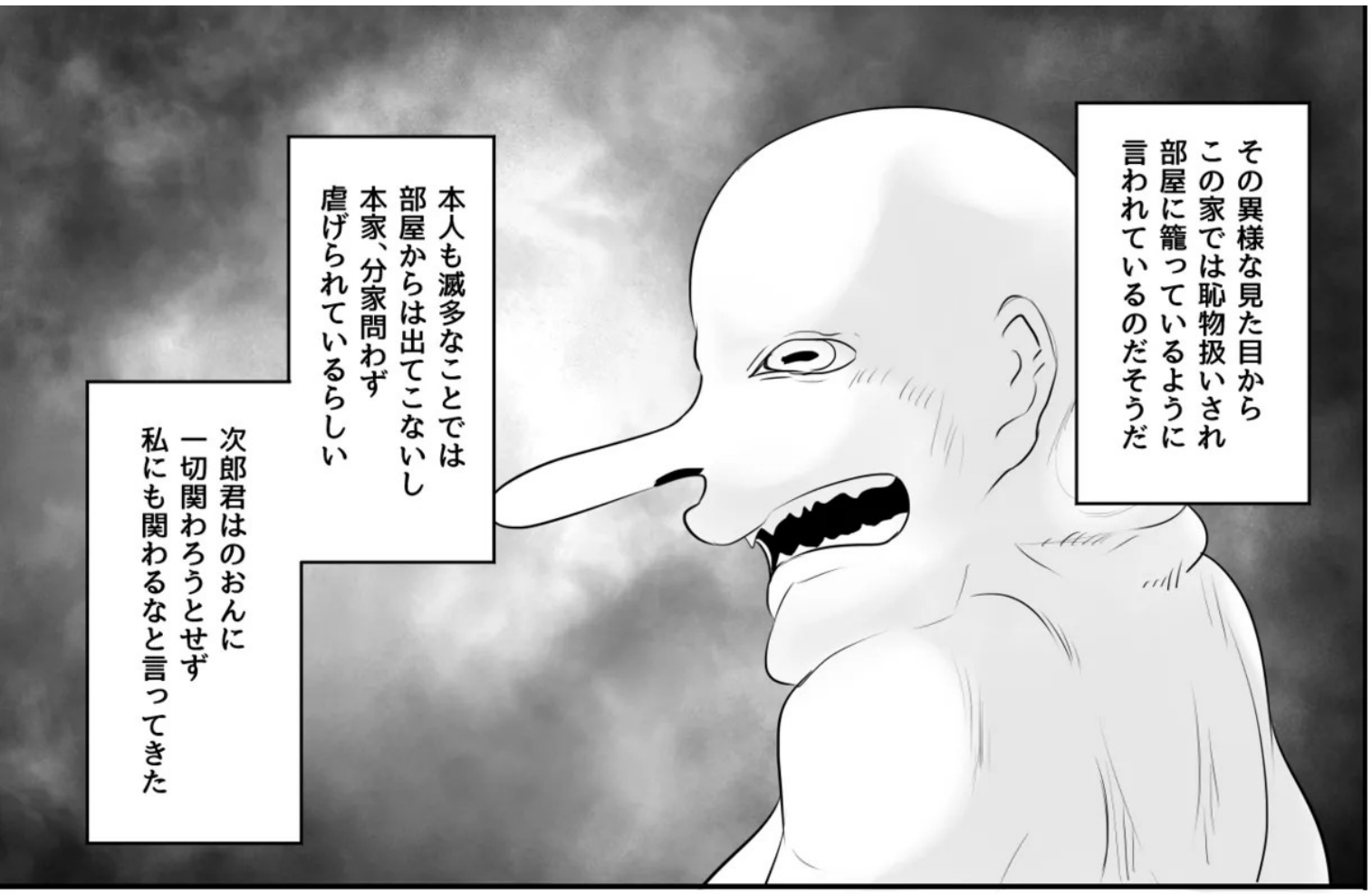
父「お前が種無しなのは解っている。
だから、ワシと愛人の間にできた子と
子をなしてもらう」
僕「そんなっ!!」
父「ススムは我々本家を疎ましく思っている
このまま家督を継がれれば
お前ら夫婦もどうなるかわからんぞ？」
僕「確かに、僕が居る会社は
この家の事業と関わっている
だからってそこまで…」
父「アイツのことは解っているだろ？そういうヤツだ」

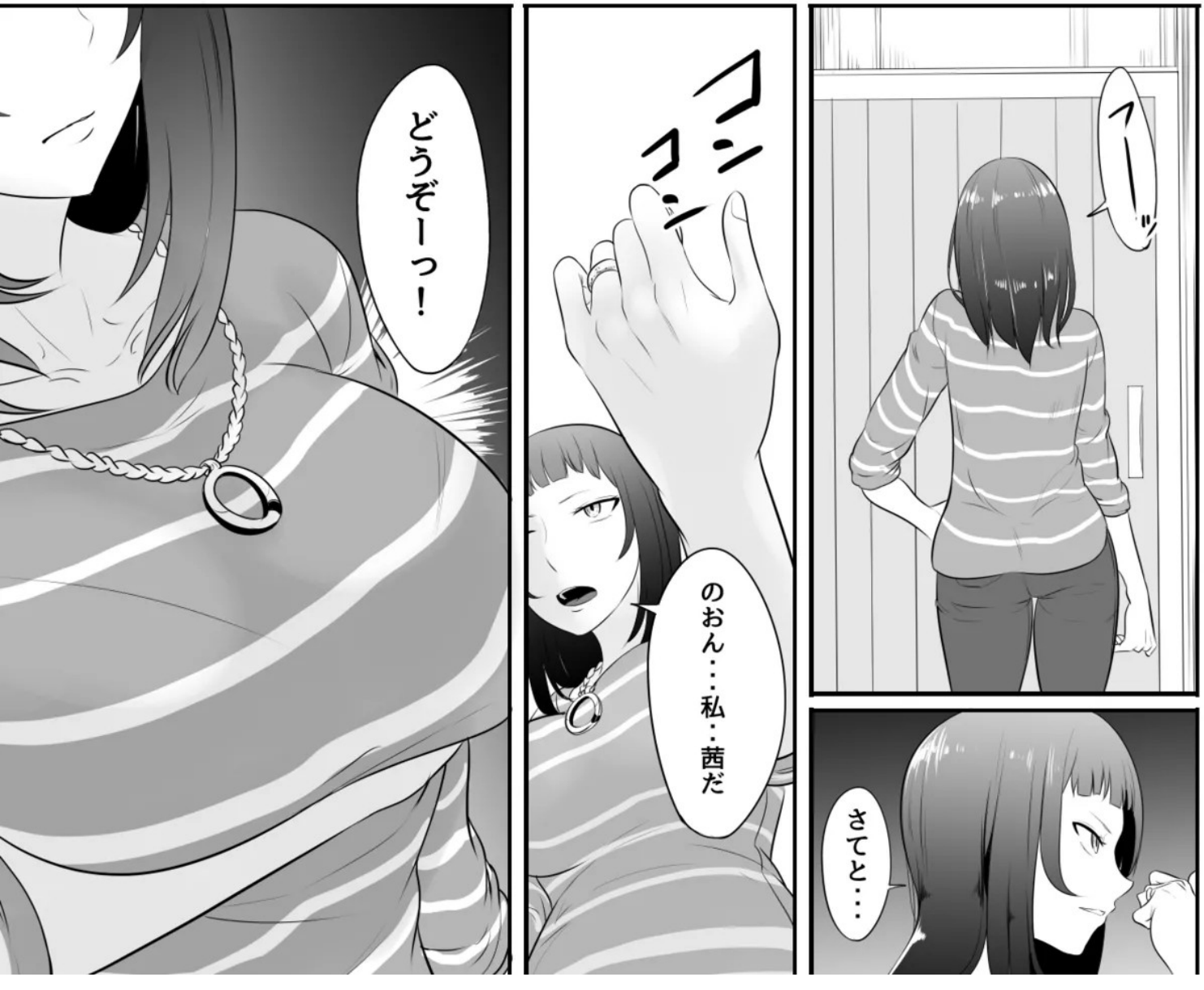

父「どうしても嫌なら、茜さんには、私の子を孕んでもらう」
僕・茜「なっ!?」
父「嫌だろ?それにワシだってもう歳だ
仕込めるかどうか…」
茜「解りました…」
僕「茜さんっ!?」
茜「すまない。だが、こうするしかない」
僕「でも…茜さんは…いいの?」
茜「ふっ…私の心配などするな
…大丈夫だよ」

茜「それに…相手は女の子だろ？」
僕は何も言えずに
頷くことしかできなかった


早速、今日からこの家に泊まり
妊娠するまで、子作りをすることに
のおんに会うのは
いつぶりだろう…
私達の結婚式の日に初めて会って
それからこの家に来る時に
数回挨拶した程度…
そんな子と私は
…子作り…

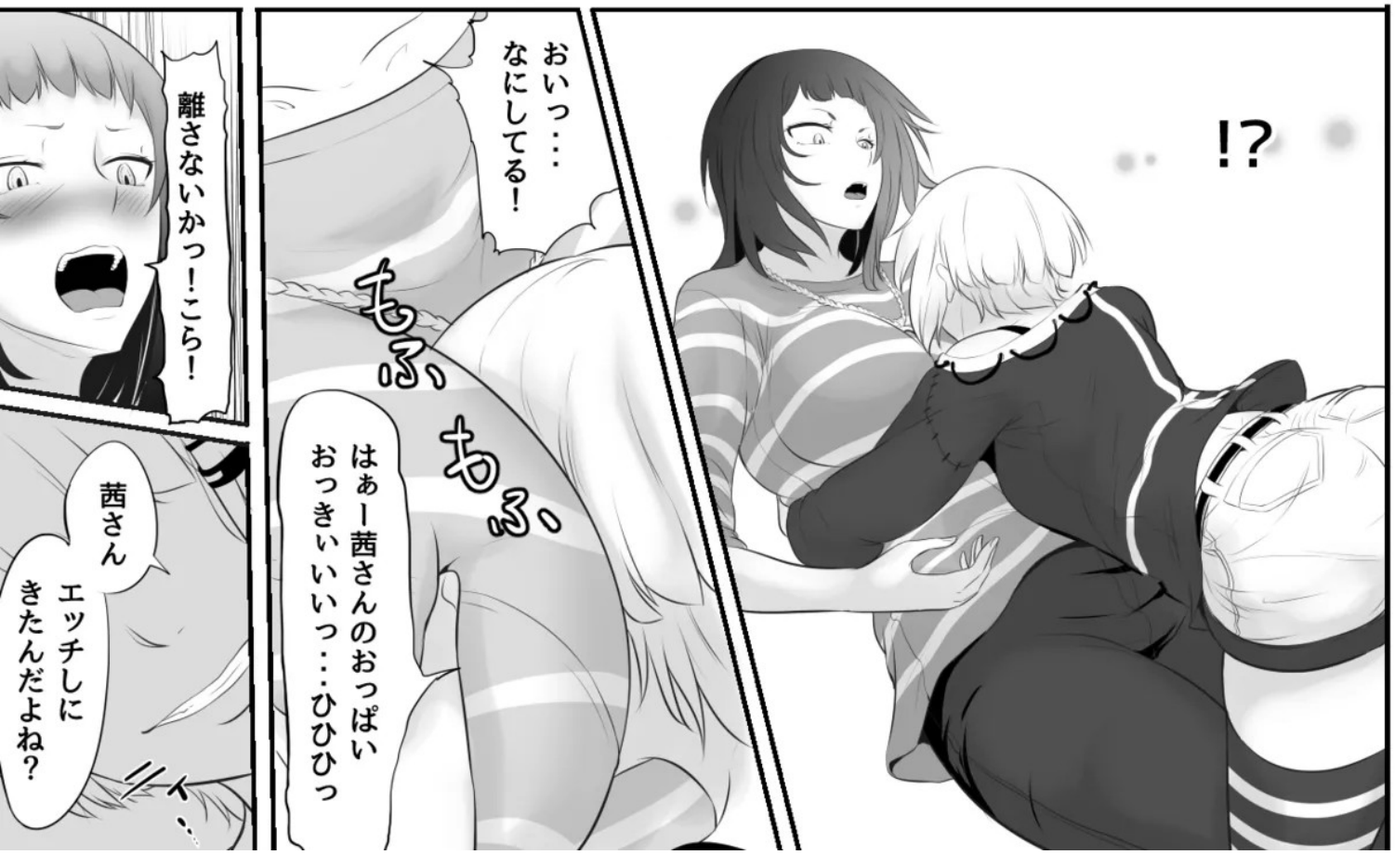

のおんは次郎君の腹違いの妹で
身体的に少々変わっている
そのことが原因だとおもうが
愛人はのおんを残して
行方をくらまし
お義父様がこの家で引き取る
ことになった

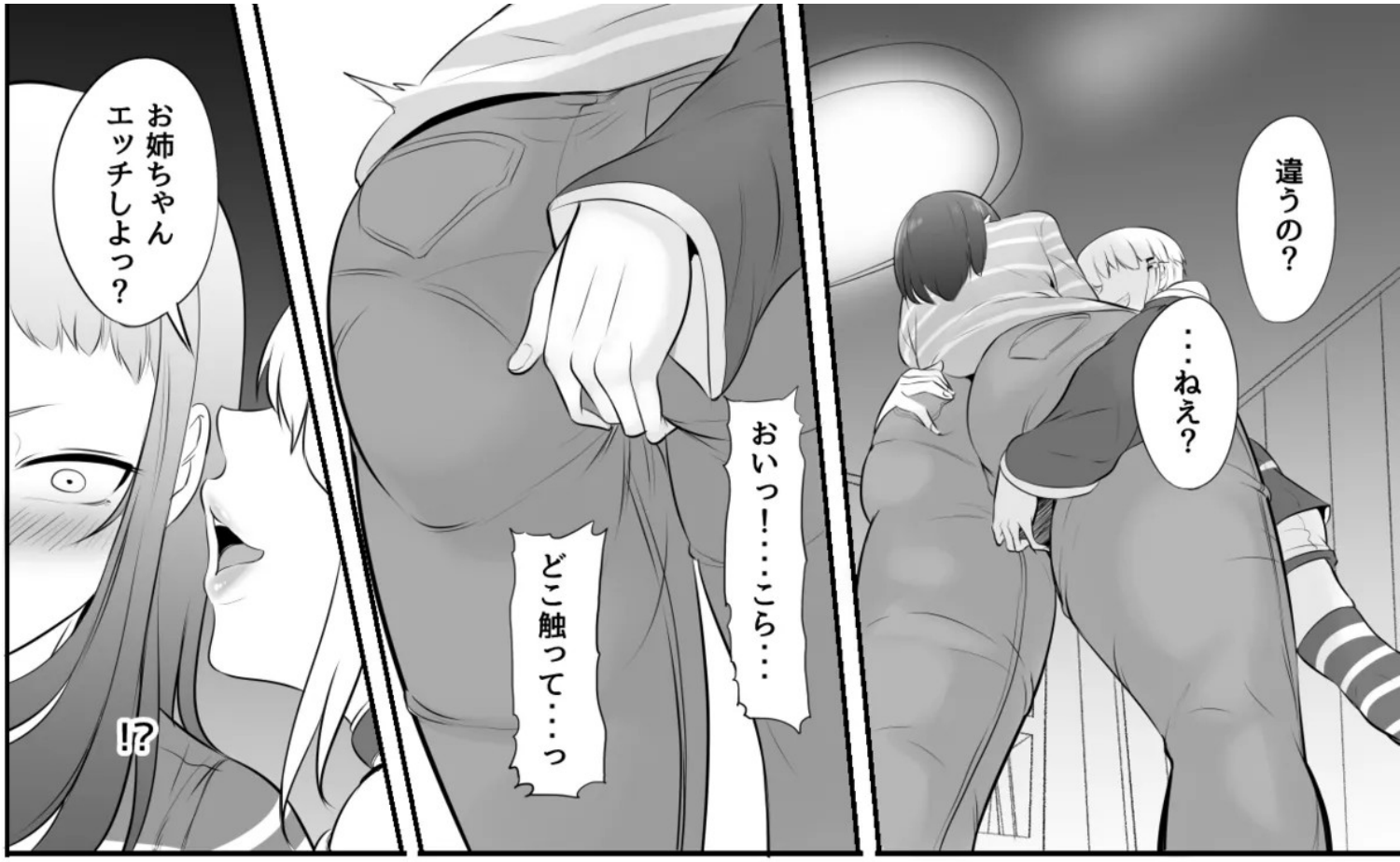

その異様な見た目から
この家では恥物扱いされ
部屋に籠っているように
言われているのだそうだ
本人も滅多なことでは
部屋からは出てこないし
本家、分家問わず
虐げられているらしい
次郎君はのおんに
一切関わろうとせず
私にも関わるなと言ってきた

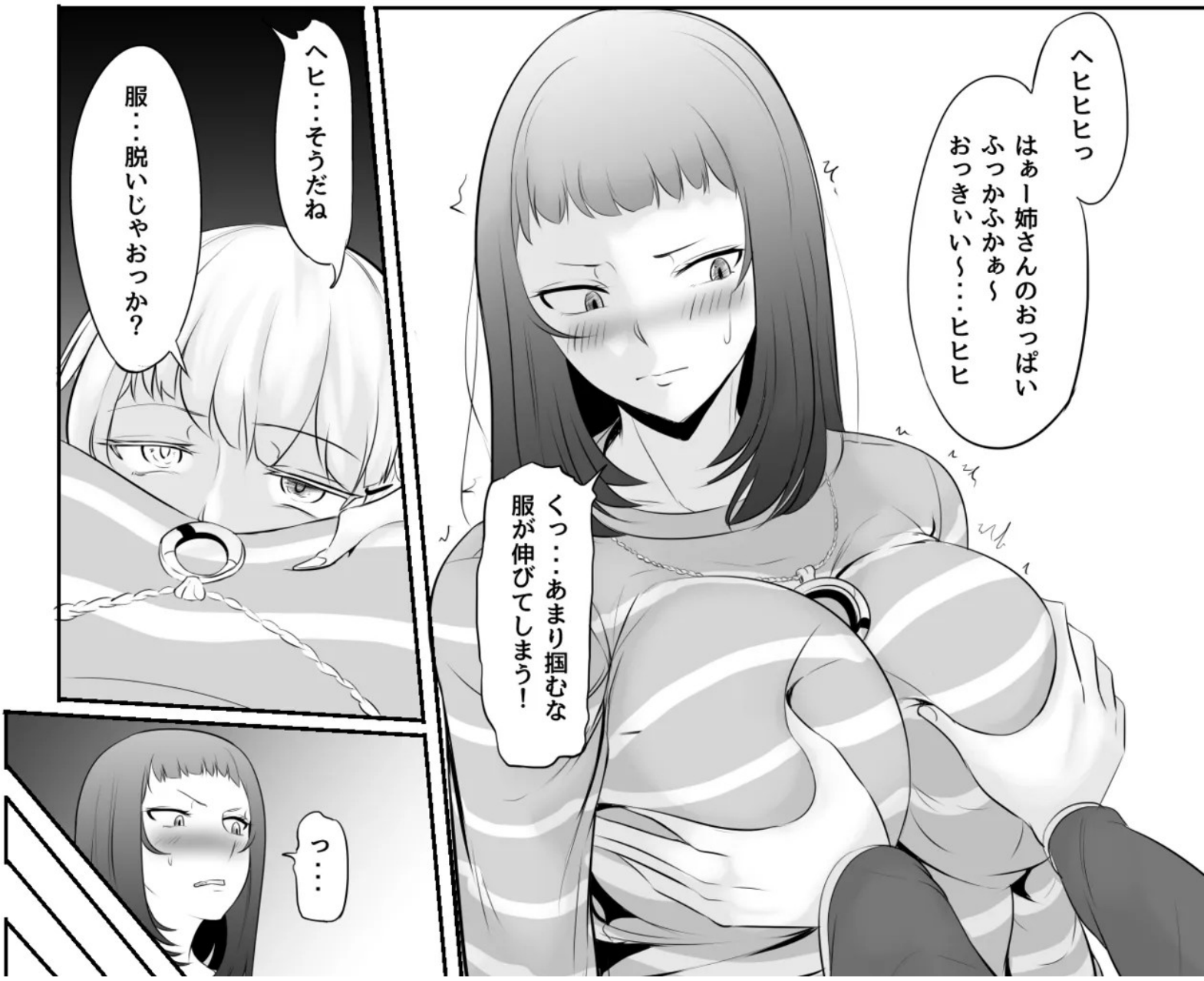

フー
コンコン
どうぞーっ！
のおん…私…茜だ
さてと…

入る…ぞ…
ガラッ
あぁ…うん
ちょっと待ってねー…
よしっと
ツートントン…っと
ふー…さて
クイッ
やぁ茜さん久しぶりだね！
あぁ…久しぶりだな
クル
アルビノ…
髪も肌も白い
そして瞳はオッドアイ…
ガチャ

現実離れした容姿
災難だね～こんな家の事情に振り回されてさっ
…まぁそれを言うならボクもだけどさ～w
…仕方ないさ嫁に来たんだからな私も立派な四条院家の…
ギィ…
？

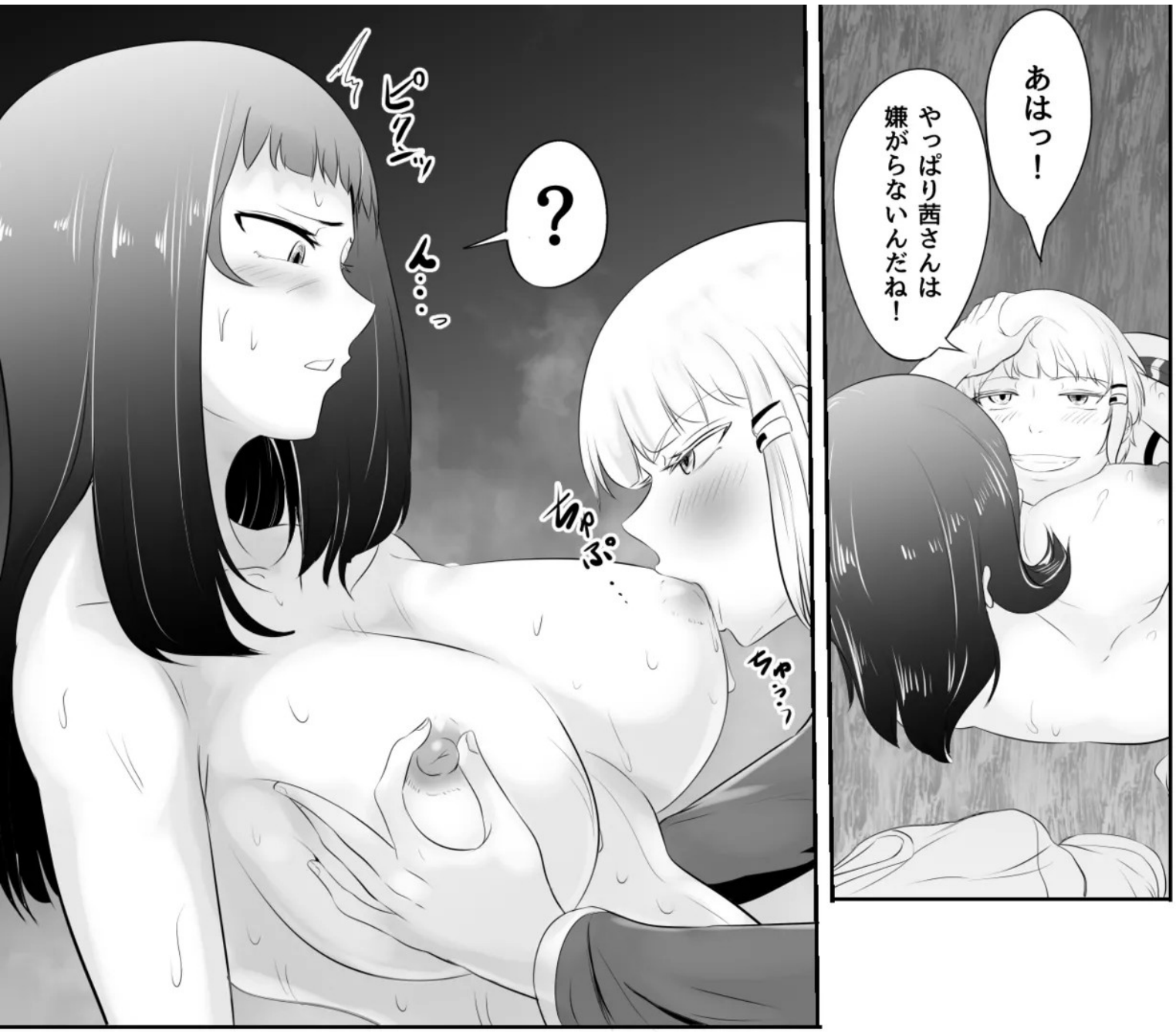

!?
おいっ…なにしてる！
もふ、もふ、
はぁー茜さんのおっぱいおっきぃいいっ…ひひひっ
離さないかっ！こら！
茜さんエッチしにきたんだよね？
ﾊｲ…


違うの？
…ねえ？
おいっ！…こら…
どこ触って…っ
お姉ちゃん
エッチしよっ？
!?

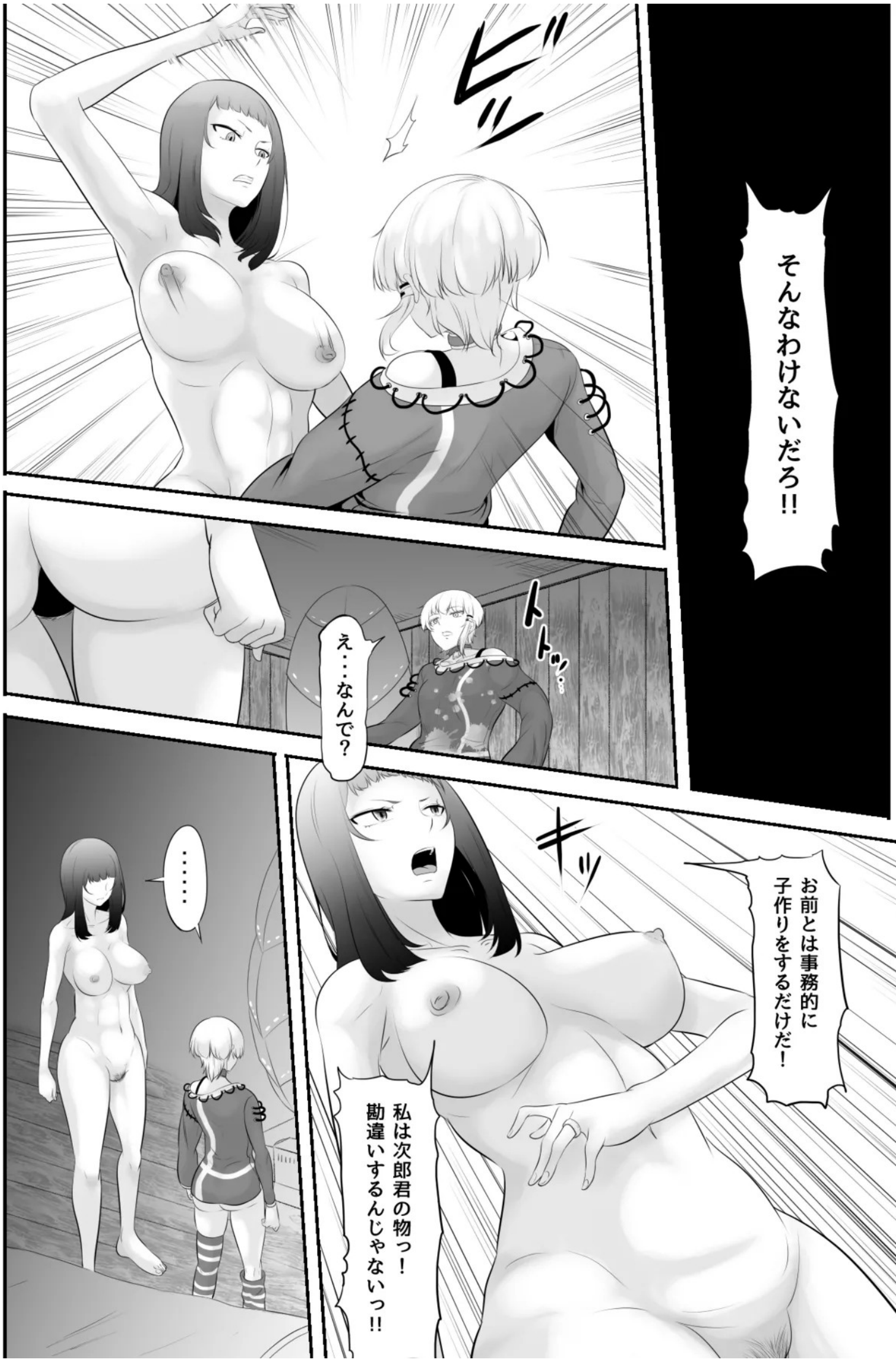

ヘヒヒヒっ
はぁー姉さんのおっぱい
ふっかふかぁ～
おっきいい～…ヒヒヒ
くっ…あまり掴むな
服が伸びてしまう！
ヘヒ…そうだね
服…脱いじゃおっか？
っ…

うぁああでっかーい！
ボインボインだね！
ふんっ別にお世辞なんて
要らないぞ
お世辞じゃないよー・・ホラ
もうこんなに・・・ヘヒヒッ
それに肌も綺麗だし
スタイルも抜群っ！
・・・ごくり
ギンギンじゃないか!?
それに・・・こんな大きさ
・・・初めて見る

のおんが虐げられる
最大の理由がコレだ
女の子なのに男性器が
生えている
姉さん…ホラ
ヘヒヒ！ほらほら
チンコふとももに擦り
つけちゃうよぉ？
いいのかなぁ？
ふとももも
汚れちゃうよぉ？
ちゃく
ちゃく…
はぁ…はぁ…
ふとももぉ…
おぉ…
あっ…おぉお
おっ♥
ふともも
きもちいい♥
はぁ～…生娘でもあるまいし
これくらいで騒ぐとでも思っているのか？


あはっ！
やっぱり茜さんは嫌がらないんだね！
ピクッ
ん…っ
？
ぷ…
ちゃっ？

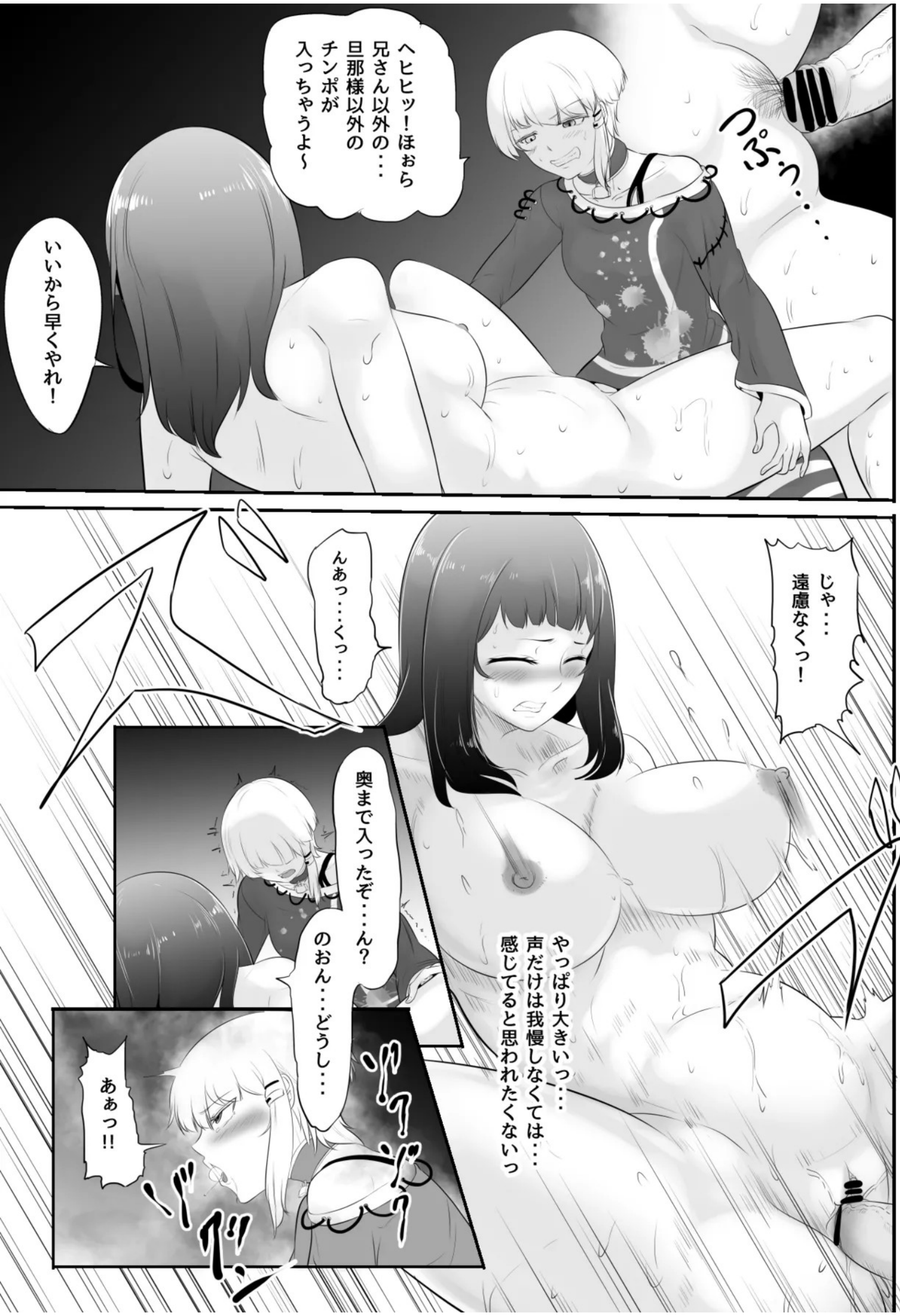
へヒヒっ！
はぁ～茜さんは今日からボクの物なんだねー…へヒヒッ！


そんなわけないだろ!!
ビッ
トトッ…
え…なんで?
お前とは事務的に
子作りをするだけだ!
キッ
私は次郎君の物っ!
勘違いするんじゃないっ!!
……

いっ～～
あぁ～あっ！
あんな腰抜け腑抜けな
種無しのどこがいいんだか！
ボつ
なっ!!
もういいから出てってよ
萎えちゃったからさぁー
ふざけるなっ！
私は一日も早く妊娠して
この馬鹿げた催しを
終わらせたいのだっ！

ん～～…
……
なぁ…頼むから
機嫌を治してくれ…な？
じゃあ誠意を
見せてくださーい！
くる
誠意…だと？

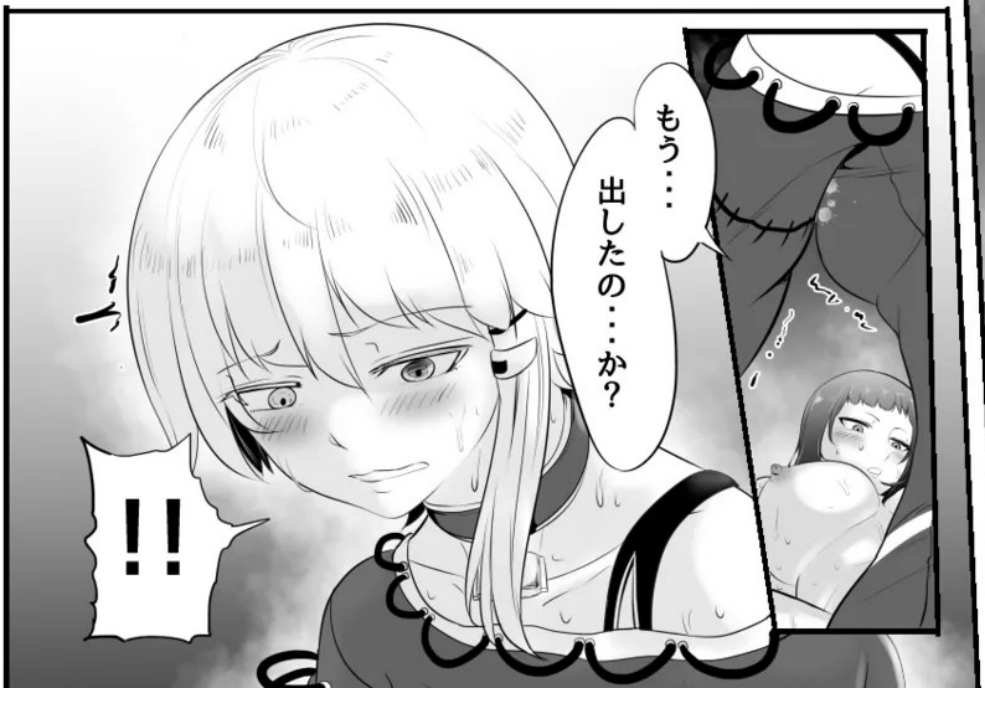
んぁ～♥
おい…もういいだろ？
十分勃ってるぞ？
ちゅ…ちゅぱっ…
ん～…で？なにぃ～？
うま
うま～
ちゅく
ちゅく
ちゃんと言って
くんないとなぁ～ヘヒヒヒヒ
はぁ～ったく…
私と子作りしてくれ！
ヘヒヒ！そそる～
人妻からの種付け依頼

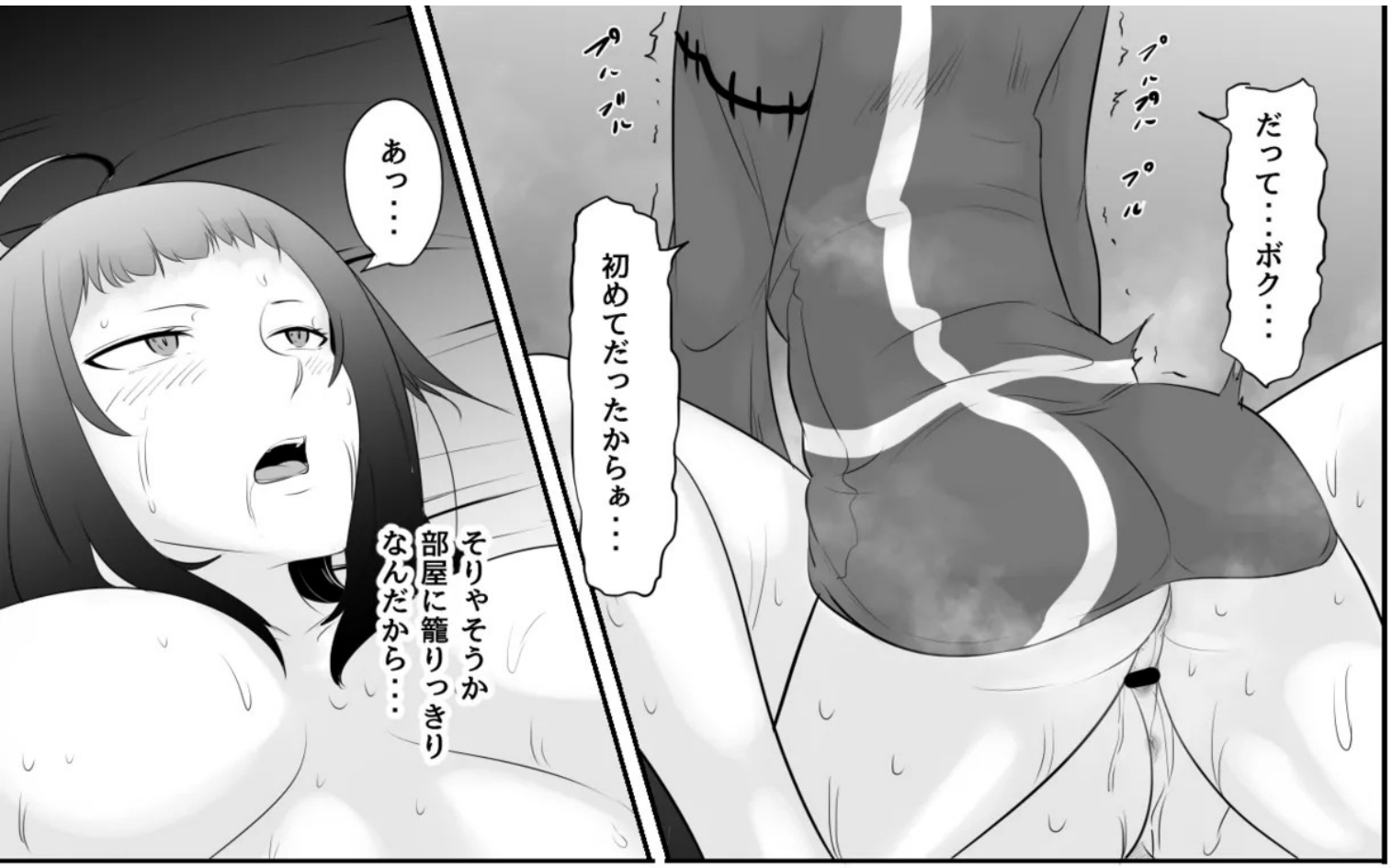

ヘヒヒッ！ほぉら
兄さん以外の…
旦那様以外の
チンポが
入っちゃうよ～
つぷっ…
いいから早くやれ！
じゃ…
遠慮なくっ！
んあっ…くっ…
やっぱり大きいっ…
声だけは我慢しなくては…
感じてると思われたくないっ
奥まで入ったぞ…ん？
のおん…どうし…
あぁっ!!

え？

んぐっ…

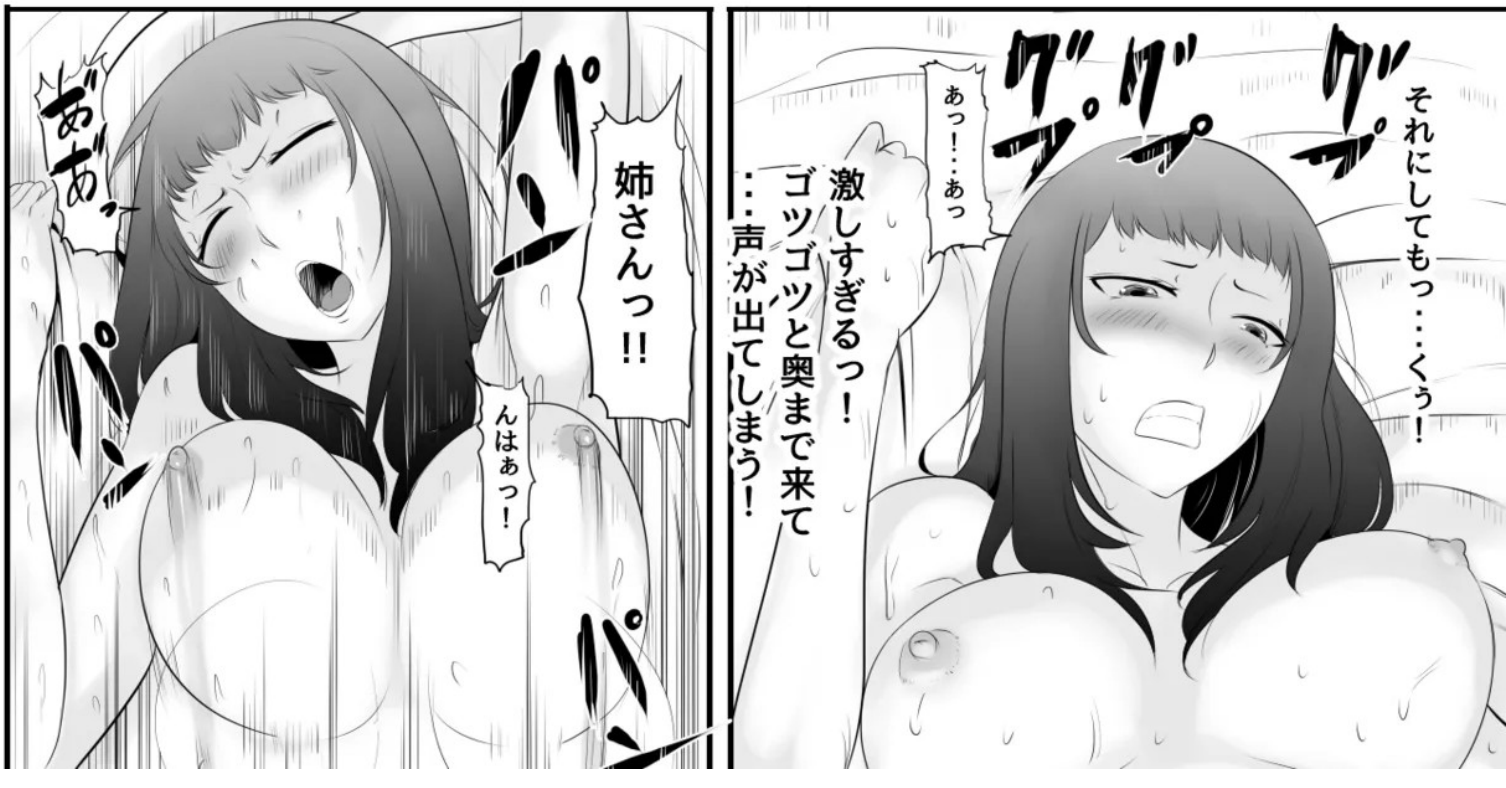
はぁああ…はぁ…あぁ…


もう…
出したの…か？
!!


だって…ボク…
プルプル
初めてだったからぁ…
あっ…
そりゃそうか
部屋に籠りっきり
なんだから…

はぁ…はぁ…
それに姉さんの中
想像以上に気持ちよくって…
想像って…お前っ
ズンズン
ズン
んおあぁっ!?

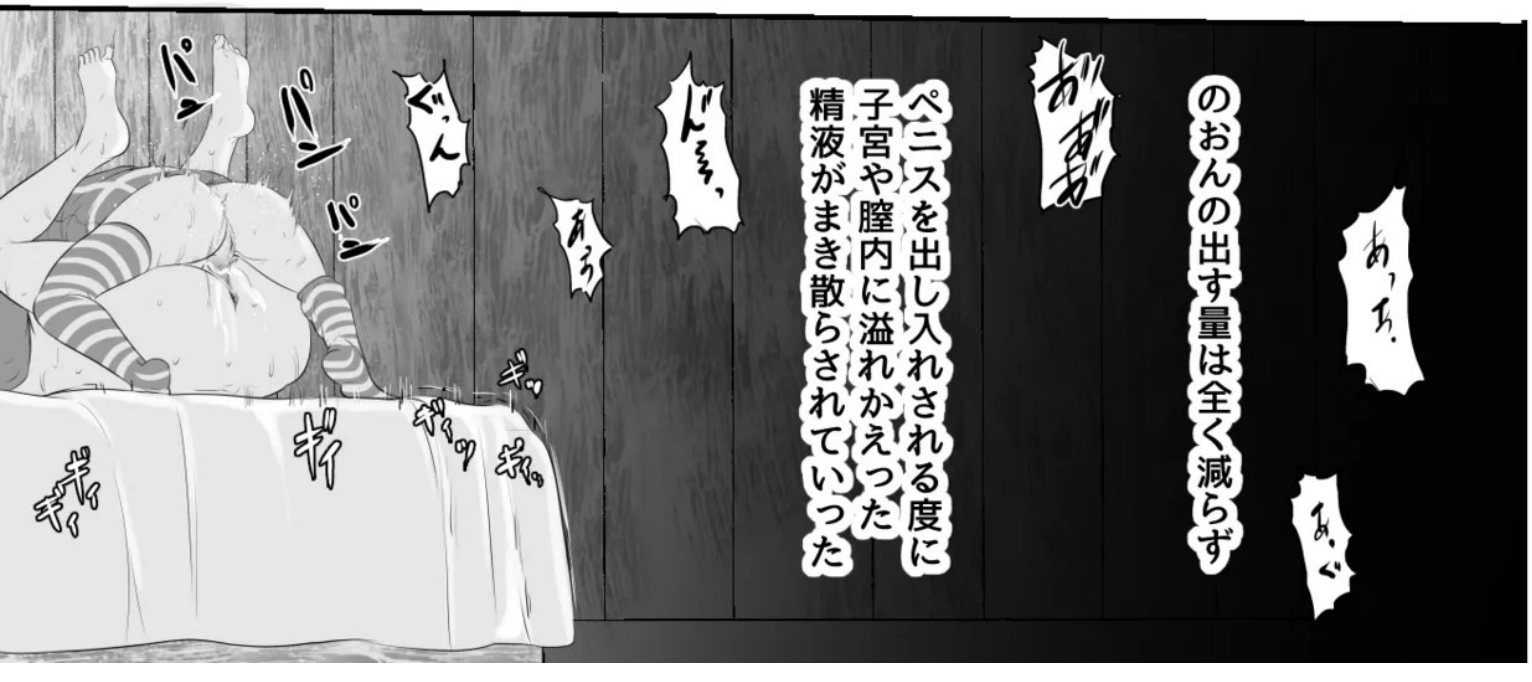
おまっ！
イったばかりで…っ
ずぢゃ
ずぢゃ
ずぢゃ
ずぢゃ
んんっ
姉さんっ！気持ちいい！
気持ちいいよおおぉ！
一回や二回出した
だけじゃ収まらないいいい！
ダメだ…
聞こえてないっ…


それにしてもっ…くう！
グッ
グッ
あっ！…あっ
激しすぎるっ！
ゴツゴツと奥まで来て
…声が出てしまう！
姉さんっ!!
んはぁっ！
パン
パン
パン
あぁ
あぁ

ちょっと…
ガチッ
いてっ
落ちつ…
ハァ…
ハァ…
んんっ!?
ぐちゃ
ぷちゃ
んぉおおおっ
ぐぢゃぢゃぢ
子宮口――っ!?
ぐりぐりされるっ…
これはヤバイっ!!
おぅっ
ぐりぐり
子宮口愛撫されて
…声我慢できないっ!!
ぐっっっ
うぅ…っ
あ
あ
あ
また…イッく…

熱いのが・・奥にいっ
感じるぅうっ！
なんて量だっ!?
二回目なのに
さっきより出てる！
妊娠・・・するっ
はぁっ！はぁっ！
姉さんっ！姉さん!!
うっ・・うそっ!?
射精がまだ
終わっていないぞ!?

それから何十回も
中に出された


のおんの出す量は全く減らず
ペニスを出し入れされる度に
子宮や膣内に溢れかえった
精液がまき散らされていった

拙い腰の動きだったが
夢中になって私を犯し続けた
精液でぐちょぐちょにされたアソコは
ペニスで擦られるだけで気持ち良く
一回絶頂させられた私は
突かれる度にイクようになっていた
当然、声など
我慢できるはずもなく
突かれる度に・・・
イかされる度に・・・
下品な声をあげていた
激しいっ
ハァッ
ハァッ
ぱちゃぱちゃ
ぱちゃ
ヌボーー
ビクン
ビチュ
ビチュル
ドピュ
イグッ
イグゥ
いぎぃぃぃっ

ビリン
ぶりゃ
ぶぴゃ
姉さん
明日から毎日しようねっ！
妊活のタイミングなんて
待ってらんないでしょ？
あ…あぁ…
これが…
毎日…だと？

二日目

茜さん…

茜「大丈夫だ！そんな心配するな！
お前は今日から会社だろ？」

「ここからだと距離があるんだ
急いだ急いだっ!!」

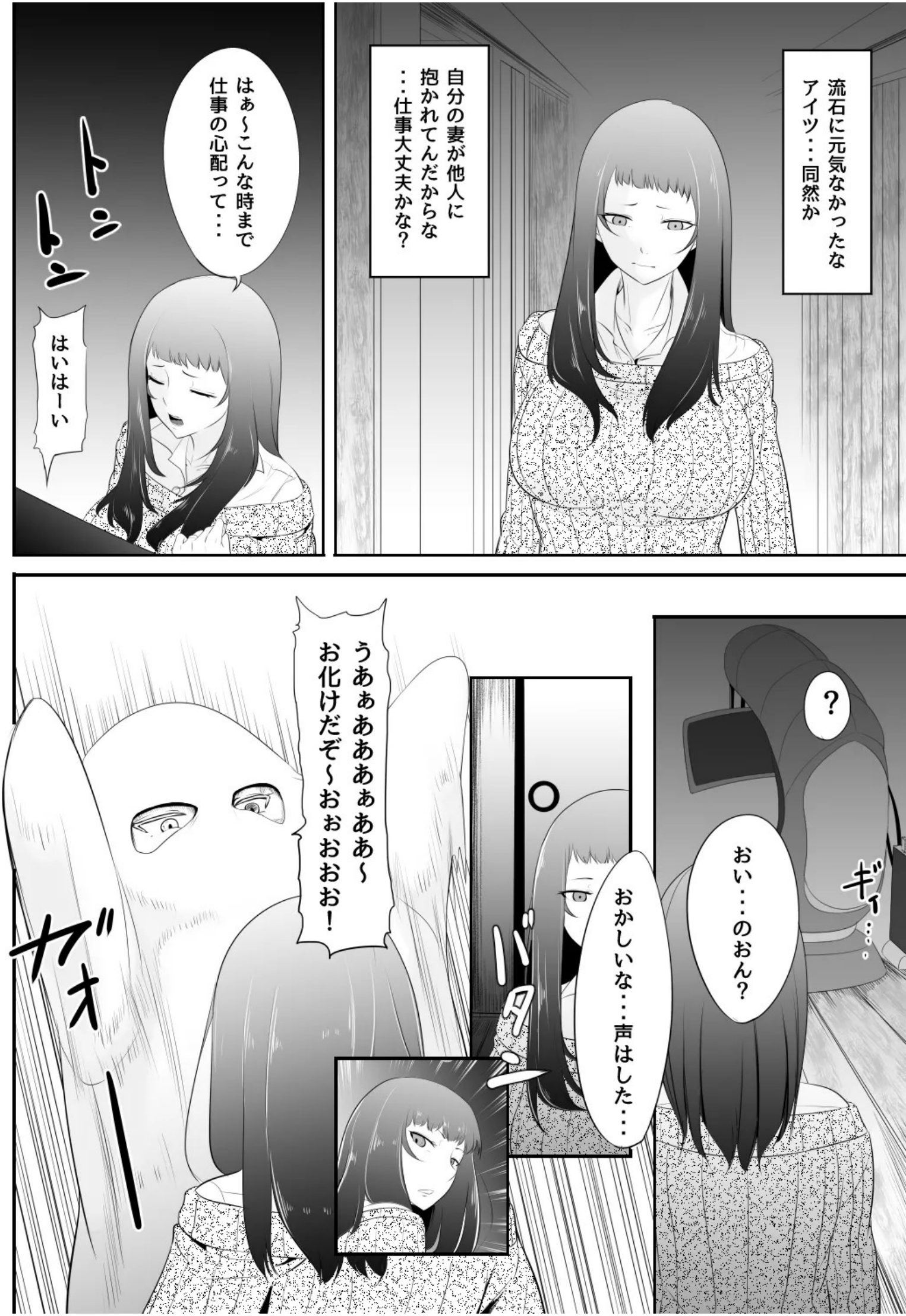
次郎「うん…」

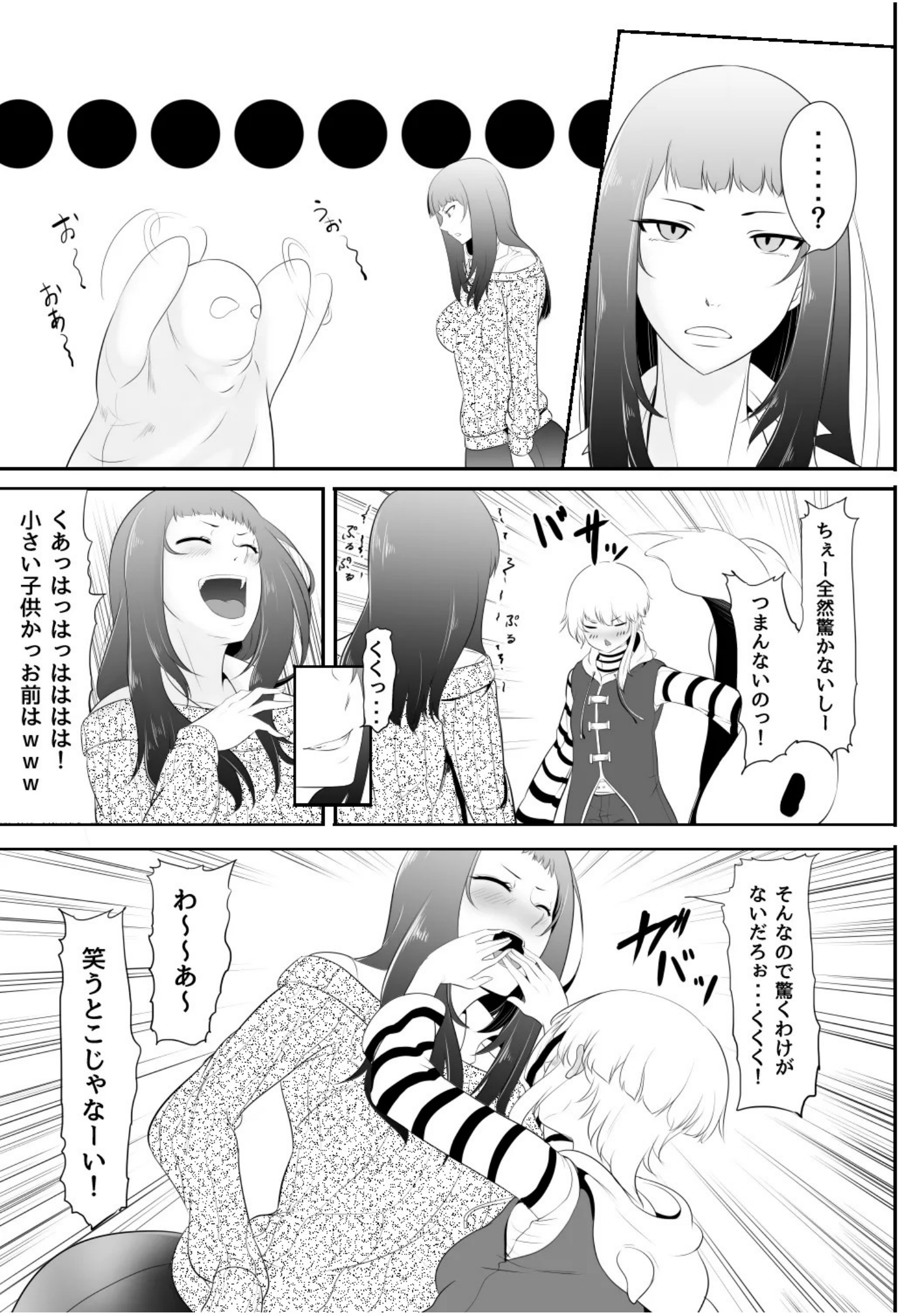
（茜さん…母親が病にかかってた時と
同じ雰囲気だ…）

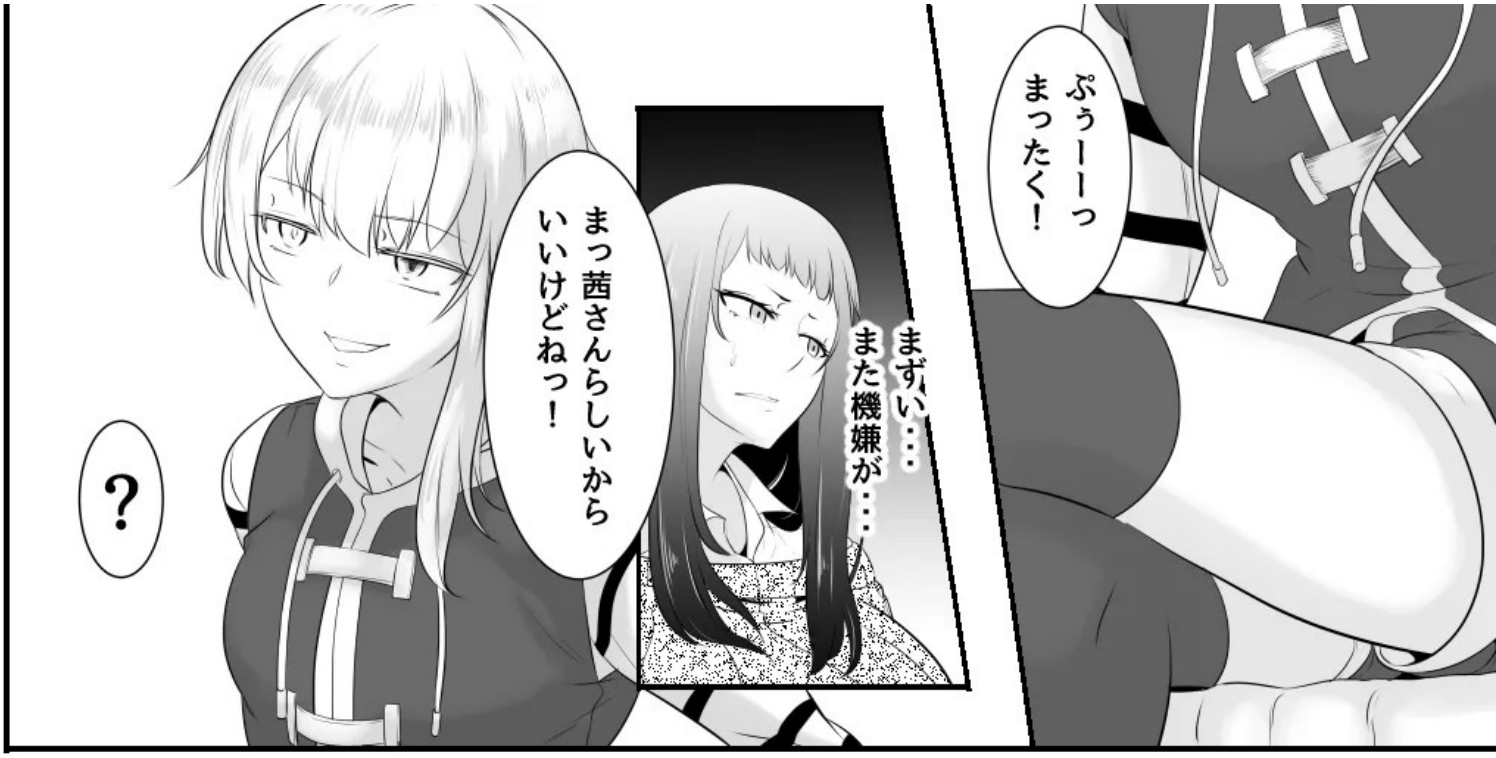
昨日はふらふらになりながら
僕らの寝室に帰ってきた
お風呂に入ってきたらしく、濡れた髪からは
いい香りがして、頬はほんのり赤くなっていた

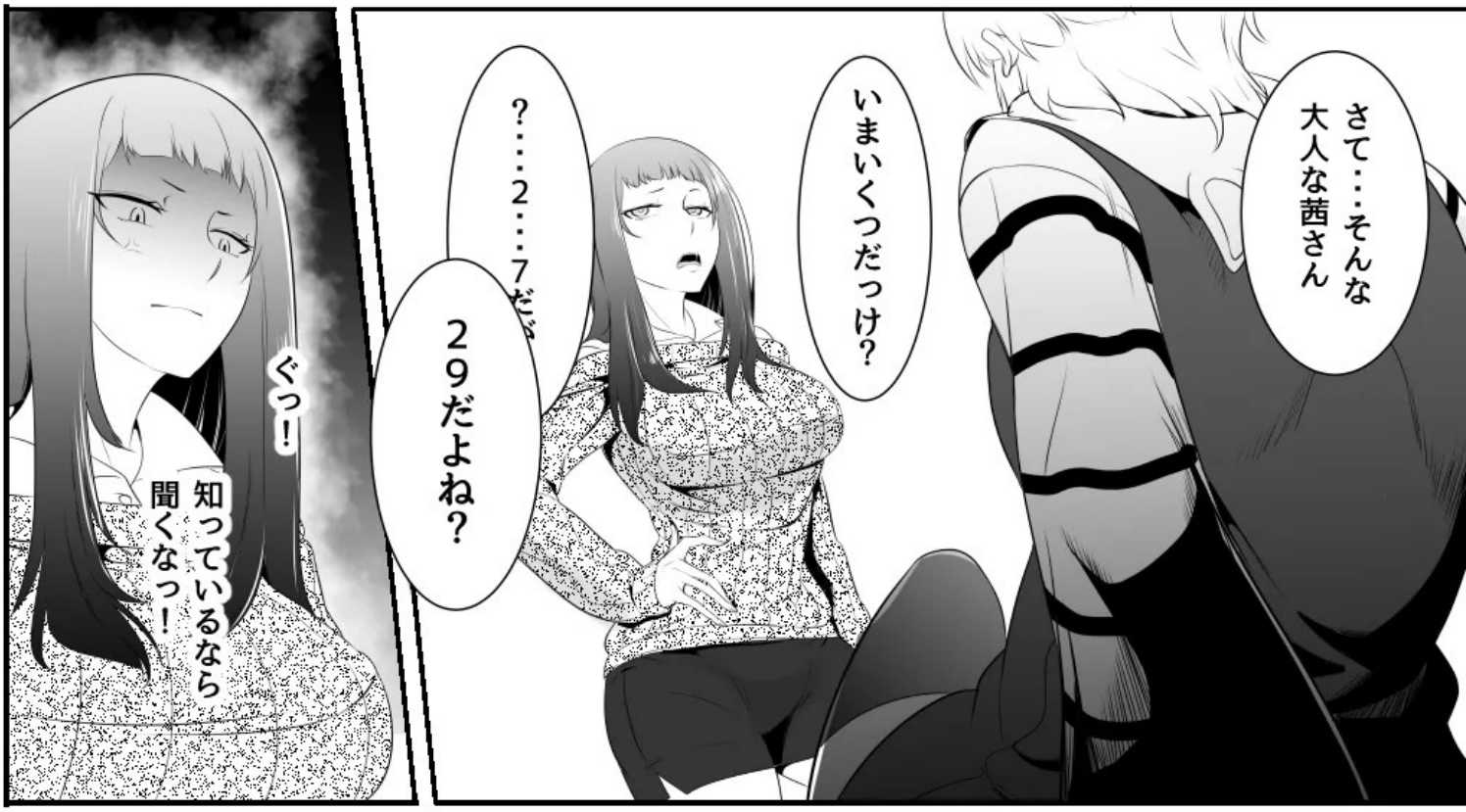
そんな茜さんに僕は何を言ったらいいか
わからずに、ただただ抱き留めることしかできなかった

義理の妹に
抱かれたばかりの妻を…
そして今日も茜さんは
アイツによって犯され
種付けをされる――
ドグンっ――っ!!
?……なんだ……この気持ちは……?

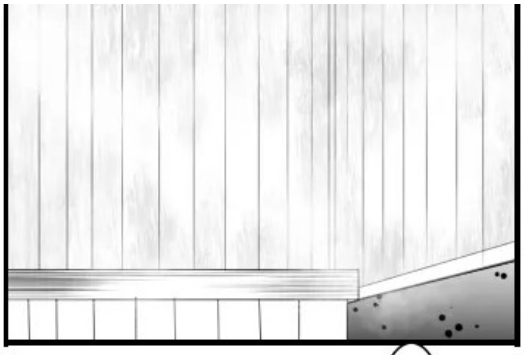

流石に元気なかったなアイツ…同然か
自分の妻が他人に抱かれてんだからな…仕事大丈夫かな？
はぁ～こんな時まで仕事の心配って…
トン
トン
はいはーい
？
おい…のおん？
おかしいな…声はした…
ギィ…
バタン
うあぁあああぁああ～お化けだぞ～おぉおおお！
ナゴオー


……？
うぉ～～
お～～
おあ～～
ちぇー全然驚かないしー
つまんないのっ！
バサッ
ぷるぷる
ぷるぷる
くくっ…
くあっはっはっはははは！
小さい子供かっお前はｗｗｗ
そんなので驚くわけがないだろぉ…くくく！
ガバッ
わ～～あ～
笑うとこじゃなーい！


ぷぅーーっ
まったく！
まずい…
また機嫌が…
まっ茜さんらしいから
いいけどねっ！
？


さて…そんな
大人な茜さん
いまいくつだっけ？
？…2…7だっ
29だよね？
ぐっ！
知っているなら
聞くなっ！

ヘヒヒっ
今日は茜さんにご奉仕
してもらおうかなぁ～
あれを着てね…
？…あれ…
なっ!?

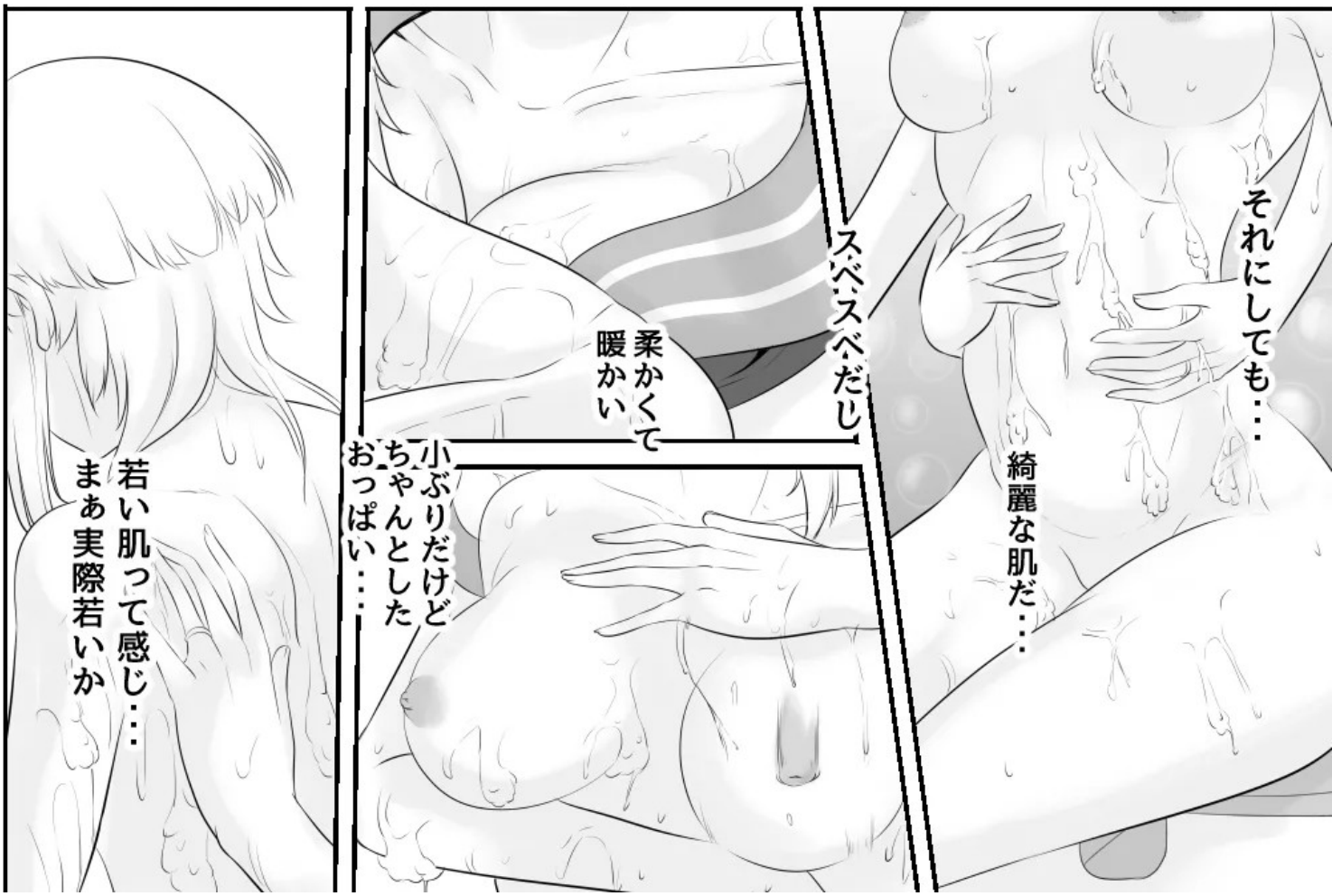


あーかーねーさぁーん
まだぁ～？

ほ…本当にこの恰好じゃなきゃだめか…？
着たならはやくー

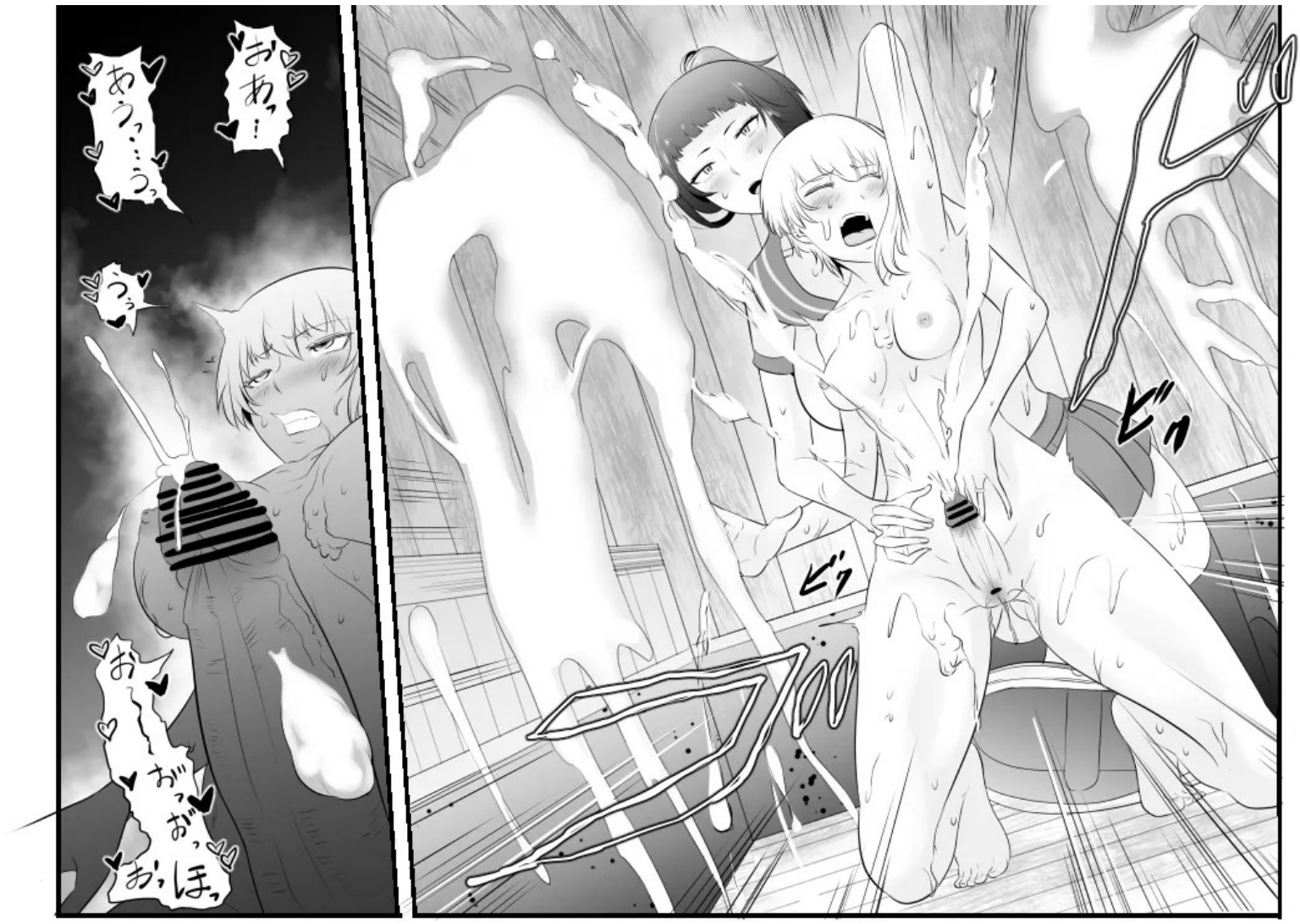
くっ…なんで私がこんな恰好を…っ
と言うかなんだこの制服はっ！
ヘヒヒッ…そりゃ毎日犯るんだから趣向を凝らさいと！
29歳人妻の制服姿…
えっろぉ～い！
ぐぅっ…ジロジロ見るんじゃないっ！
ヘヒヒっ！見るために着せたんだよ？
あーもういいから向こう向け！

なぁおい…
タオルとかじゃ
ダメなのか？
うん　ボク肌が弱いから
タオルで洗うとボロボロに
なっちゃう
そうか…
なら仕方ないな


それにしても…
綺麗な肌だ…
スベスベだし
柔かくて
暖かい
小ぶりだけど
ちゃんとした
おっぱい…
若い肌って感じ…
まぁ実際若いか

んぅ…姉さん手つきがやらしいよぉ～
へ!?い、いいや洗ってるだけだぞ！
へへ…別にいいよ姉さんの手に犯されるの気持ちいし…ヘヒッ♡
おっおおお犯すって…お前っ
姉さん…
女のここも…気持ちよくして
女のって…
他人のアソコを触るなんて初めてだ…
こんな感じか？
ぐちゅ

はぁっ…あっん…
姉さんのぉ・手が
ボクのマンコを
虐めてくるよぉ！
こらっ！変なこと言うな
洗ってるだけだぞ！
もみ
もみ
ビギギギギ
あぁあっ!!
おちんちんが
勃起した…すごい
大きいかも…
乳首も…こんなに
イッグゥウウウ


おあっ！
あうっ…うっ
うっ
おっ
おっおっ
おっほっ
ビク
ビクッ

なっ！
イっ…イッたのか？
はぁ…はぁ…
急に…
乳首摘まむんだもんっ
んぅ…
私が射精させたのか…
す…すまん

ピチョン
姉さん…
人妻がソーププレイとか
エロ過ぎっしょ？ｗｗｗ
ぬれぬれ
お…お前が
やらせてるんだろ！
べちょ
べちょ

ヘヒヒ…さぁ姉さん
次はボクに塗るんだよ？
勿論そのスケベな体を使ってね♡

はぁー…ったく
わぁ～お凄ぉい…
姉さんに襲われてるみたい
襲うかバカ！
おいっ！
腰を動かすな！
ずりゅ
ずりゅ
ずりゅ
ずりゅ
にへ
ヘヒヒ…
感じちゃうんだ
感じてなど…
むにぃ…
むちっ
ぬちゃ
んっ！
姉さんの感度
上がってきてるよぉ？
乳首ビンビン
んあっ…

んんっ♥
んいっ♥
悔しいがローションが
気持ちいい…
のおんの体も
私の感度を上げてくる

挿入れるぞ…のおん…
はぁ…はぁ…
あぁ…自分から
欲しがるなんて…
うん、すぐに
イかないように頑張るよ
ヌチャ…
ヌチャ
んんっ…
すぐに終わってくれた方が
…いいのだが…なっ
ヘヒッ…
今日は姉さんが
先にイクかな

ゴッ
ズリズリズリ
おぉっ
おぉっ
んにぃ
いいいいい
いいい
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ヘヒヒ！
手伝ってあげたよ
どうする？
このまま僕が動く？
こいつ…昨日まで
童貞だったクセにっ
よへいなっ…ことっ
しゅるなあああっ
わらしがっ…うごっ
うごくぅ～～
はあっ
はあっ
まずい…最初の一撃で
おマンコがバカになってるっ！
はあっ
はあっ
感じすぎて…
腰が上手く動かない
おっほ
ふんっ
ふっ

ヘヒヒッ
姉さん騎乗位慣れてないのかな？
兄さんにはしてあげてないの？
アイツのことは…言うっなぁーっ
ずぢぢぢ
ぶぢゅ
仕方ないなぁボクが動いてあげるね！
えっ？ちょっ待て!!自分のペースで…
ヴガッ
ぐぢゅ
ぶぢゅ

おっぉおおお

ムリムリいい！
てか、姉さんこそ
腰動いてるよぉおおお！
ズンッ♥
ズンッ♥
パン
パンパン
あぁあああっ・・・体中が
快感の虜になってゆぅうう
あぁあっ・・・ダメだっこれえええええ
おひゃ
かひゃー
はひ
はひぃ
こんにゃの・・・
しらにゃい・・・

こんな感じのが
数日間続いた
様々な服に
多様なプレイを
強いられ
私はなんの
主導権も握れず
歳の離れた義妹の
言うがままに従い
奉仕していった
彼女のご機嫌を
とるために
妊娠するのに
何の関係もない
ことをして体を
ザーメンまみれにし
彼女がしたくなっら
私のマンコに
種付けをする
そんなことを
毎日やっている中で
私はの体は・・・

ついこの前まで童貞だった子に
快楽を教え込まれたのだった
おぉ
おぉ
おぼっ
孕む
孕む
妊娠する
妊娠する
くふぅう…
…今日もいっぱい出して
あげたよ…姉さん
快楽に体中を
支配されようとも
ぶぼっ
ぶぴっ
私の心は…心だけは夫の…
次郎君のものでなければと思い
耐え続けていた…
へひひぃ…
今日も…お精子
ありがとう
ごじゃいましゅ♡
私の心は次郎君のものだ…

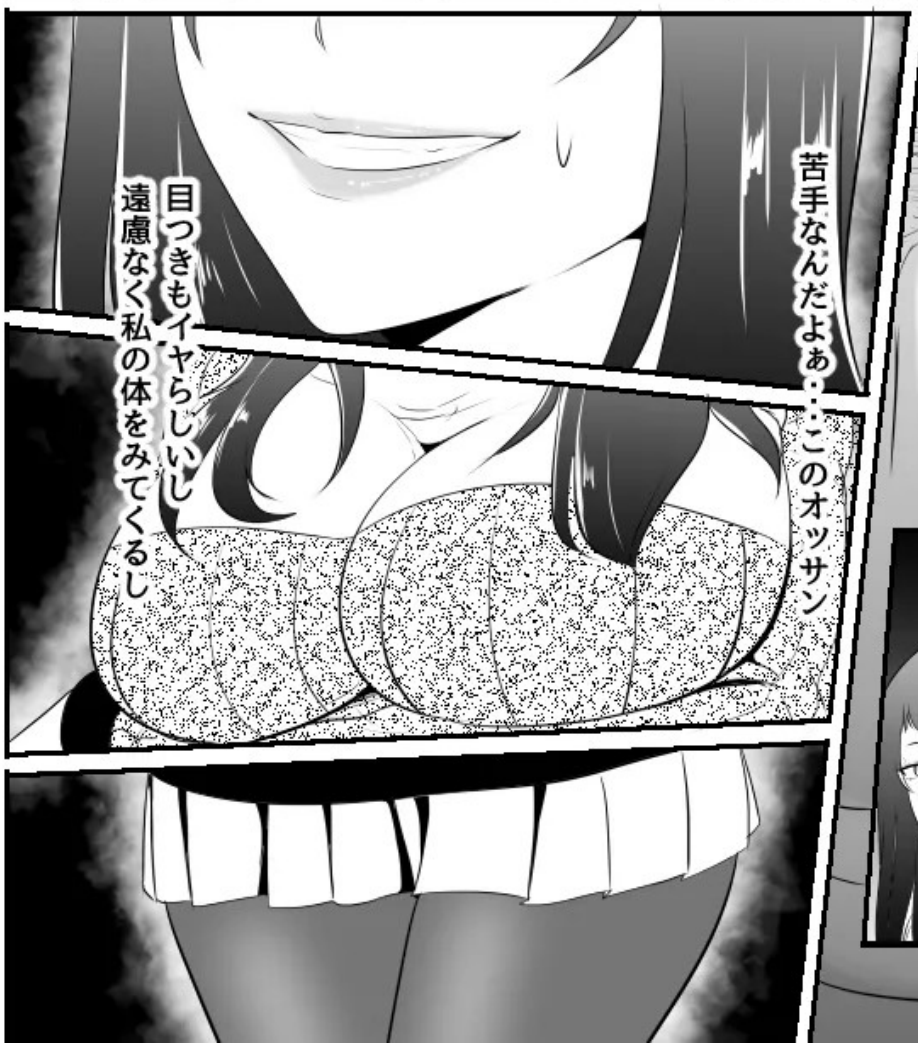
―数日後
今朝は茜さんの様子がおかしい
…なんと言うか
ソワソワしているような？
茜「どうしたんだ？
さっきから私のこと見てないか？」
次郎「え！？…いや、その
どんな感じなのかなって」
茜「え？どんなって？」
次郎「あっ！いや…なんでもないよ！」
（なにを聞いているんだ僕は!?
茜さんが妹に種付けされているんだぞ？
それを聞いてどうしようってんだ）
茜「あ、うん。まぁ…ちょっと激しいし、チンポが大きいけど…大丈夫よ」
次郎「えっ！？」ドクン――ッ!!
茜「回数も多くて、大変だし…
最近じゃただ突くだけじゃないくて
私の弱い所をチンポでぐりぐりしてきたり
とにかく私をイかせようとするのよね
まっ私にかかればちょろいわよ！」

次郎「…茜…さん？」
茜「って、もう！なにを言わせてんのよ！
朝っぱらから！」
パシッ――っ……
次郎「それじゃ…行ってきます」
茜「うん…気を付けて。頑張ってね！」
なんだろう…茜さんがあんなこと言うなんて…
普段ならセックスとか下の話はしない人なのに
それにちょっと…浮かれてなかったか？

朝っぱらからナニの話をされてたんじゃ～？
ゴルフ
あっ！進叔父さん…おはようございます

はぁ～…私は朝っぱらから何を言っているんだ

茜さぁん


苦手なんだよぁ…このオッサン
目つきもイヤらしいし遠慮なく私の体をみてくるし

むふふふふ…ふ～ん
…？

それじゃ私はこれで
用があるので
へへへ…
用ってのは
アレの所に行くんだろ？
スケベしにようぉ？
ひにいいっ！
ギィィィ
おっほ、感じ易いんだな
いい声で鳴きよるｗ
バチッ
なっ!!
なにをする!!
ブルブル
おうおう何だよ？
尻触ったくらいでよぉ
夫の叔父に対して
態度がきついんだじゃ
ねぇのかい？
意味解らん
私はもう行くぞ！
おい!!ちょっと
待て…っ

ゴルフ

そそそそそそそそそそ

人のモンに手ぇ出してんじゃねぇーよ!ゴミがぁ!!
ぐぅうう・・・貴様ぁ・・・

化け物め…気持ち悪い…
まったく…
ヒョコ
ヒョコ

ああ～？
キッ
くうっ！
ぐう～…

急にどうした!?

おっおい！のおん？

…あっ…のおん
その…ありがと…

ちょっ…おい
ボスン
アイツに…どこ触られたの？
え？あ～いや…尻だが…なんだ？
ギィ…
おあっ！…ちょ急にどうした？

汚された！ボクのなのにぃ！
あんなクソ汚いゴミじじいにぃ！
またボクのものにっ！ボクのものにぃ!!
くちゅ…
おい！やめろ！まだ準備できて…
え？

うそっ！
私のアソコすんなり
のおんのを受け入れた!?
体が勝手に
反応しちゃってるの!?
姉さんは世界で一番
大切な存在なんだよ…
…姉さん覚えてる？
ボクに初めて声をかけて
くれた時のこと
のおん…待てっ
母さんからも
ボクは疎まれていたのに
姉さんだけが違った！
ボクをちゃんと見て
ボクを人扱いしてくれるんだ!!
んあぁあっ！
乱暴にするなっ
学校のヤツも
近所のヤツも家族も…
壊れうぅっ！
この家に来た時にボクを見たら
いつも挨拶してくれるし!!

そうだ！いつだったかボクにお菓子をくれたでしょ！
おっあ
バ
仕事であったムカつく話もしてくれた！
おくう
いろんな感情がこの子の中から溢れてきてる・・・
悲しみを植え付けられて育った心が・・・
ズギュ
ズギュ
ビグ
ビグ
ビグ
欲求や独占欲が
嫉妬心が
怒りが——
姉さんっ！好きだよっ!!
ボク、姉さんのこと
本当に愛してるんだっ!!
—私に向かってきている
パチュ
パチュ
ズギュ

のっ…おん
聞け…んっ
…前も言ったが
私はお前だけの物には…
なれないっ…んぁっ
ずぬ、ずぬっ
だが♡
お前の側に居る♡
…ずっとだ！
茜さぁんっ
んぁっ♡
…妊娠して
終わりじゃないの!?
終わりじゃ…
ないぞっ!!
おっお♡…
おう♡
お前を…っ
都合のいい
道具扱いはしない
それに…
お前には私の体を…
淫らにした責任を
取ってもらわないとな…

一年後

茜「それじゃ次郎君、行ってくるわね」

次郎「う…うん…」

茜「はぁ～まったく君は…
シャキッとしないかっ！四条院次郎っ！」

次郎「あの…茜さん…もういいんじゃないかなか？
のおんの所に行かなくても…」

茜「それは散々話合ったろ？
お義兄さんみたいなこともあるし
人数は多い方がいいって」

次郎「そうれは・・・そうだけど」
茜　「よしっ！じゃっ行ってくるぞ♡」
次郎「あっ！茜さ・・・」
茜　「しっかり世話を頼んだぞ！
お父さんっ!!」

産まれて一ヶ月の赤ん坊を僕に預けて
茜さんは行ってしまった

嬉しそうに…ウキウキしながら

のおんとの子作りは成功し
僕らは晴れて親になった。
しかし、茜さんから提案があり
一人だけでは何かと不安だからと
もう一人作ると言う話になった。

僕的には一人で十分だと思った…なにしろ
あれ以来僕は茜さんとセックスをしていない
妊娠中は勿論だが
子作り中も茜さんの体力を気遣ってしていなかった。

子供が生まれ、落ち着いたころに
やっと茜さんとできると思っていたのに…

兄さん一家の件でナーバスになっている
父の後押しもあり、二人目を作ることに
そして茜さんは、毎日のようにのおんとセックスをしている…

抱きたい…僕も茜さんを抱きたい…
あの豊満でムチムチなおっぱい…
仕事熱心だった茜さんらしく
僕のチンポを丁寧に舐めてくれて…
普段の凛々しい顔が僕のチンポで淫れる…
おんぎゃあああああああああああっ！
赤ん坊の泣き声に、心の中から現実に引き戻される…

茜さんっ！見て見てぇ！
おぉ～！凄いな
…これは私だな？
そう！新しい事業で
ホロテリアって言うんだ！
最近はミニマリストが
増えてるからホログラムで
部屋を飾るのが流行って…
てえっ!?
ヤワワワ…
そうか…すごいな…
はぁ…はぁ…
茜さん…
聞いてる？
次郎の10倍は…はぁ…はぁ
軽く稼いでいるぞ…はぁ
グニグニ

んんっ…茜さんっ
稼いでいるから…
凄いってことはないっ…よ
ビグ
ビグ
いや…凄いぞ…
のおんのは凄い…はぁ…はぁ
ペロ
はぁ…はぁ…
こんなに…
大きくなってぇ…
次郎君より
立派だぁ…♡
ちゅゅゅ
う♡
ビクン
ビクン
レロレロレロ
ビクン
ビクン
んぁ
ビクン

うあぁぁっ…あっ
じゅるるるる
ぐぼっ
ゴボ
ぢゅにゅ
凄っ…唇でシゴきながら舌で舐めまわされるぅうう♡
ぢゅぶぶ
ゴボッ

お尻のあなぁあっ…あぁっイジっちゃ…あぁあっ！
ヴヴヴヴヴヴ
ビィンビィン
ビクリ
カポ
ゴポ
ぢゃぢゃ
ゴポ
ぐぶっ
ぢゃぢゃぶ
んっんぇ
んんっ
あ、ちょっと
ぴくぴくぴく
どろ…
きゃやややや
つぷぷぷ
ぐにに

のぐっ…うぁっ!?
ビクッ
ビクン
ドン
びゅるるる
んあっ…そんな
ぐちゃぐちゃ
ぐぢゃ
びちゃ
ビクビクッ
ギュムギュム
ぐぢゃ
ザーメン塗りつけたらぁっ
ヌルヌルで気持ちいい…
射精止まらなくなぅぅう♡
ぶびぶぶ
どろぉ…
どろ…
んふふっ…
どろぉ…
精液塗れチンポの
出来上がりぃ♡

さぁ次はそのザーメンチンポでハメまわしてくれぇ♡
はぁはぁ……茜さん

今日は土曜日であいつが赤ん坊の世話をしているから一日中だってできるぞ？
ずっずっずっ
おっひぃぃぃぃ
精液チンポきたぁぁぁあ♡

あぁんっ！これで…っ
また孕むぅ！
チンポ擦られただけで
孕んでしまううぅ!!
ぶるん
へ…ヒッ♡
姉さんの…胸
大きくなった？
モニュン♡
あぁひぃんっだめぇえええ♡
今おっぱい揉んじゃだえだぞぉ♡
ぴゅっ♡
出ちゃうぅ…
出てしまうぅうあああああっ!!

おっ
おほぉ♥
プシュ
ビュッ
ビュッ
プシャ
プシャ

あひゃああ・・ああっ
出てるぅ・・・おっぱいミルクぅうううう♥
ギュッチッチッチッ
おっほぉおおおあっ
チンポ締め付けてくるぅ♥
このおっ！
負けないぞぉ！
パン
パン
んっひぃいいいいい♥
ズッチュ
ズッチュ
ズッチュ

母乳…まき散らしながら
バン
チンポ締め付けてきて…ぁあぁあ!!エロい!
姉さんっ!!エロ過ぎだよぉ!
姉さんエロいっ!!
エロいっ!
ボクもまくっ!
精液まくっ姉さんの中にぃ子種まき散らすよぉおおお♡

このままっ！
お前も体液
まき散らしながら
んぐうっ
妊娠させながら
腰をふれえええ！
姉さっんっ!!
お姉ちゃんっ！
お姉ちゃんって呼んでくれ！
呼ばれながら
種付けされるのが
気持ちいいんだっ!!

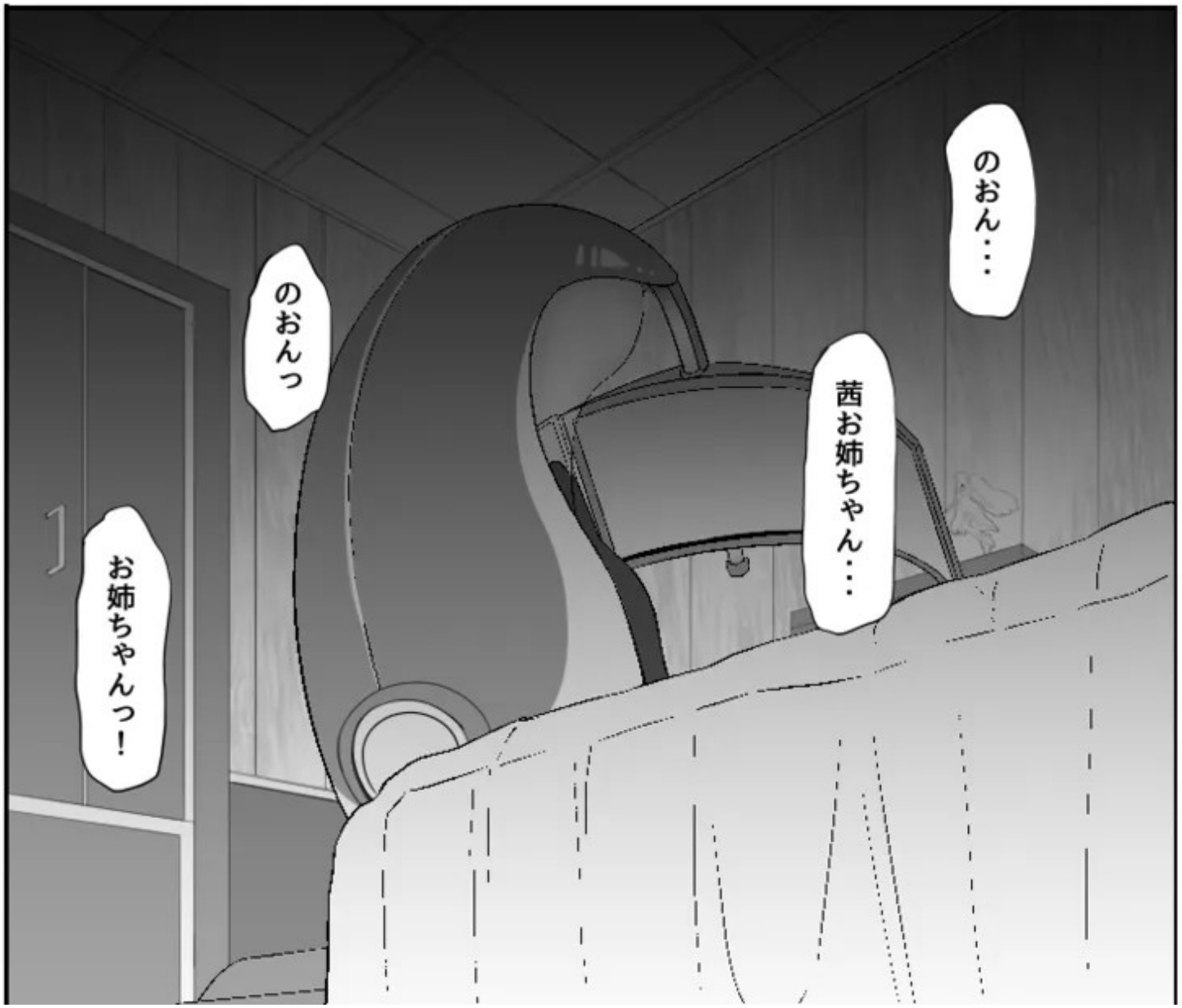
姉さ…んっ
お姉ちゃんっ！
のおんっ！
のおんチンポぉ！
お姉ちゃんっ！
お姉ちゃんっ！
のおんっ
気持ちいいい♡
ばすん
ばすん
じゅとぉ…じゅっと一緒だぞっ
のおぉおおおんっ!!
うんっ！うん！お姉ちゃん！
ずっとボクがお姉ちゃんを
喜ばすんだぁあ！
だがらお姉ちゃんっ！孕んでっ！
孕んでっ！お姉ちゃあああんっ！

おっ…あっ…出りゅ…
ビクッビクッ
あぁあ!!止まらなっ…
?お・姉ちゃん?
はぁ・はぁ…
しぇえ液…
来て・子宮に来てぇえ
ビクッビクッ
ガクガク

イグゥゥゥゥ
種付けアクメ

ビ
ギィ
ギィ
ギュュ
ギュ
うぁあつ!!ザーメンっ
絞り取られるぅ!
ビ
ほぁ…ほぁ…
はひっ…ひっ…
ぷぴぃー
ぴぃー
ビクビク

ピッ
ビクッ
ヘヒヒ…
熱い子種ぇ…
ドプ
子宮で感じて
気持ちいい…♡
ビクッ
ビクッ
はぁ…はぁ…
茜…お姉ちゃん…


のおん…
茜お姉ちゃん…
のおんっ
お姉ちゃんっ！

はじめは義務感でしていた

なのにいつの間にか
のおんとのセックスを
生きがいとしている

そんな私が出来上がっていた・・・

彼女の一途な想いに心を開かれ
体に与えられる快楽に抗えなくなったのだ

もう子作りなんてどうでもいい
私はのおんのことが好きだ

誰よりも・・・愛している

——めでたし☆